

3課

旧約聖書の預言者

10月17日

安息日午後

10月10日

暗証聖句

出て行くとき、ヨシャファトは立って言った。「ユダとエルサレムの住民よ、聞け。あなたたちの神、主に信頼せよ。そうすればあなたは確かに生かされる。またその預言者に信頼せよ。そうすれば勝利を得ることができる。」（歴代誌下 20:20、新共同訳）

その出て行くとき、ヨシャパテは立って言った、「ユダの人々およびエルサレムの民よ、わたしに聞きなさい。あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう」。（歴代志下 20:20、口語訳）

今週の聖句

ヤコブ 5:17、18、列王記(列王紀)上 19:1～16、列王記(列王紀)上 22:1～14、出エジプト記 15:20、列王記(列王紀)下 22:11～14、エレミヤ 14:1～15

今週のテーマ

全地球測位システム(GPS)は、旅行者が自分の現在地や目的地を知るのを助け、危険に対する警告さえ与えてくれます。天国へ向かう霊的な旅人たちも、今、そして将来にわたって、天の「測位システム」による導きを必要としています。昔、神がこのようなことを行われた一つの方法は、旧約聖書の預言者の働きを通してでした。神のメッセージを人々に伝えた多くの預言者については、彼らの物語、助言、預言、詩、歌の中に多くのことを見いだせます。

今週の研究では、旧約聖書の中で預言者がどのように描かれているかを探索します。それらの描写は、これら神の僕たちを通してあらわされた預言の賜物を理解する助けとなります。

見ていくとわかるように、彼らは私たちと同じような人々であり、恐れ、怒り、落胆に悩まされる弱い人間でした。彼らの人生は楽なものではなく、私たちと同様、試練や困難に満ちていました。

では、特別に召されたこのような数人の神の僕たちから、私たちは何を学ぶことができるのでしょうか。

先週の研究で見たように、主は預言者エリヤを用いて、激しい反対にもかかわらず、イスラエルで驚くべき業を成し遂げられました。主が彼を通してなさったことは、信じがたいものでしたが、その後、どうなったのでしょうか……。

問1 ヤコブ 5:17, 18 で、ヤコブが預言者エリヤをどう描写しているか、考察してみてください。ヤコブが、「エリヤは、わたしたちと同じような人間でした」〔口語訳「エリヤは、わたしたちと同じ人間であった」〕と言っているのは、どういう意味でしょうか。

エリヤはカルメル山で驚くべき成功を収めました(王上18章)。神は彼を通して力強く働かれ、旧約聖書の歴史の中に描かれた最も驚くべき奇跡の一つが起きました。エリヤ自身の言葉が響いた瞬間、文字どおりに天から火が降ってきたのです(同18:38)！ そのような出来事のあとなら、この神の人はこの上なく喜んだに違いないと、あなたは思うでしょう。

問2 列王記(列王紀)上 19:1~16 を読んでください。これは神の預言者の精神状態について、どんなことを物語っていますか。

「主よ、もう十分です。わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまさる者ではありません」〔口語訳「主よ、もはや、じゅうぶんです。今わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまさる者ではありません」〕(王上19:4)。これは、ある種の抑うつ状態に苦しんでいる人の言葉のように聞こえます。なぜでしょうか。カルメル山で起こったことは、確かに、簡単に真似できる行為ではないでしょうが、それにしても、ここでは何か別のことが起こっています。

おそらくその鍵は、彼の次の言葉の中に見いだせるでしょう。「わたしは万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました。ところが、イスラエルの人々はあなたとの契約を捨て、祭壇を破壊し、預言者たちを剣にかけて殺したのです。わたし一人だけが残し、彼らはこのわたしの命をも奪おうとねらっています」〔口語訳「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でありました。イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、刀をもってあなたの預言者たちを殺したのです。ただわたしだけ残りましたが、彼らはわたしの命を取ろうとしています」〕(王上19:10)。この言葉は、彼が働きにおいて失敗したと考え、嘆いているかのように聞こえます。彼の最善の努力にもかかわらず、背教はなお続いており、まるで彼だけがその流れを食い止めることができたかのようです。結局のところ、ここで何が起きているにせよ、私たちはこの神の人の人間性と脆さを見ることができます。言い換えれば、エリヤは、「わたしたちと同じような人間」〔口語訳「わたしたちと同じ人間」〕だったのです。

【参考】英語テキストにある文

Why might it be easy at times to have a sense of “failure” in your own life or endeavors?
What Bible promises can you claim to help you work through discouragement?

あなた自身の人生や日々の労苦において、時に「失敗」しているような感覚に陥りやすいのはなぜでしょうか。落ち込んだ気持ちを乗り越えるために、どのような聖書の約束を頼りにできるでしょうか。

19

ヤコ 5:17、18 （新共同訳）

5:17 エリヤは、わたしたちと同じような人間でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ったところ、三年半にわたって地上に雨が降りませんでした。

5:18 しかし、再び祈ったところ、天から雨が降り、地は実をみのらせました。

王上 18 章 （新共同訳）

18:1 多くの日を重ねて三年目のこと、主の言葉がエリヤに臨んだ。「行って、アハブの前に姿を現せ。わたしはこの地の面に雨を降らせる。」

18:2 エリヤはアハブの前に姿を現すために出かけた。サマリアはひどい飢饉に襲われていた。

18:3 アハブは宮廷長オバドヤを呼び寄せた——オバドヤは心から主を畏れ敬う人で、

18:4 イゼベルが主の預言者を切り殺したとき、百人の預言者を救い出し、五十人ずつ洞穴にかくまい、パンと水をもって養った——。

18:5 アハブはオバドヤに言った。「この地のすべての泉、すべての川を見回ってくれ。馬やらばを生かしておく草が見つかり、家畜を殺さずに済むかもしれない。」

18:6 彼らは国を分けて巡ることにし、アハブは一人で一つの道を行き、オバドヤも一人でほかの道を行った。

18:7 オバドヤが道を歩いていると、エリヤが彼に会いに来た。オバドヤはそれがエリヤだと分かって、ひれ伏し、「あなたは、エリヤさまではありませんか?」と言った。

18:8 エリヤは彼に言った。「そうです。あなたの主君のもとに行って、エリヤがここにいて、と言ってください。」

ヤコ 5:17、18 （口語訳）

5:17 エリヤは、わたしたちと同じ人間であつたが、雨が降らないようにと祈をささげたところ、三年六か月のあいだ、地上に雨が降らなかった。

5:18 それから、ふたたび祈ったところ、天は雨を降らせ、地はその実をみのらせた。

王上 18 章 （口語訳）

18:1 多くの日を経て、三年目に主の言葉がエリヤに臨んだ、「行って、あなたの身をアハブに示しなさい。わたしは雨を地に降らせる」。

18:2 エリヤはその身をアハブに示そうとして行った。その時、サマリアにききんが激しかった。

18:3 アハブは家づかさオバデヤを召した。(オバデヤは深く主を恐れる人で、

18:4 イゼベルが主の預言者を断ち滅ぼした時、オバデヤは百人の預言者を救い出して五十人ずつほら穴に隠し、パンと水をもって彼らを養った)。

18:5 アハブはオバデヤに言った、「国中のすべての水の源と、すべての川に行ってみるがよい。馬と騾馬を生かしておくための草があるかもしれない。そうすれば、われわれは家畜をいくぶんでも失わずにすむであろう」。

18:6 彼らは行き巡る地をふたりで分け、アハブはひとりでこの道を行き、オバデヤはひとりで他の道を行った。

18:7 オバデヤが道を進んでいた時、エリヤが彼に会った。彼はエリヤを認めて伏して言った、「わが主エリヤよ、あなたはここにおられるのですか?」。

18:8 エリヤは彼に言った、「そうです。行って、あなたの主人に、エリヤはここにいてと告げなさい」。

18:9 オバドヤは言った。「わたしにどんな罪があって、あなたは僕をアハブの手に渡し、殺そうとなさるのですか。

18:10 あなたの神、主は生きておられます。わたしの主君があなたを捜し出そうとして人を送らなかった民や国はないのです。彼らが、『エリヤはここにいない』と言えば、王はその国や民に、エリヤは見つからなかったと誓わせるほどです。

18:11 今あなたは、『エリヤがここにいる、とあなたの主君アハブに言いに行きなさい』と言われる。

18:12 しかし、わたしがあなたを離れば、主の霊はあなたをわたしの知らないところに連れて行くでしょう。わたしがアハブに知らせに行っても、あなたが見つからなければ、わたしは殺されます。僕は幼いころから、主を畏れ敬っております。

18:13 イゼベルが主の預言者を殺したときにわたしがしたことを、あなたは知らされてはいないのですか。わたしは主の預言者百人を五十人ずつ洞穴にかくまい、パンと水をもって養いました。

18:14 今あなたは、『エリヤがここにいる、とあなたの主君に言いに行きなさい』と言われる。わたしは殺されてしまいました。』

18:15 エリヤはこう答えた。「わたしの仕えている万軍の主は生きておられます。今日わたしはアハブの前に姿を現します。」

18:16 オバドヤはアハブに会って知らせたので、アハブはエリヤに会いに来た。

18:17 アハブはエリヤを見ると、「お前が、イスラエルを煩わす者よ」と言った。

18:18 エリヤは言った。「わたしではなく、主の戒めを捨て、バアルに従っているあなたとあなたの父の家こそ、イスラエルを煩わしている。

18:19 今イスラエルのすべての人々を、イゼベルの食卓に着く四百五十人のバアルの預言者、四百人のアシェラの預言者と共に、カルメル山に集め、わたしの前に出そうように使いを送っていただき

18:9 彼は言った、「わたしにどんな罪があって、あなたはしもべをアハブの手にわたして殺そうとされるのですか。

18:10 あなたの神、主は生きておられます。わたしの主人があなたを尋ねるために、人をつかわさない民はなく、国もありません。そしてエリヤはいないと言う時は、その国、その民に、あなたが見つからないという誓いをさせるのです。

18:11 あなたは今『行って、エリヤはここにいると主人に告げよ』と言われる。

18:12 しかしわたしがあなたを離れて行くと、主の霊はあなたを、わたしの知らない所へ連れて行くでしょう。わたしが行ってアハブに告げ、彼があなたを見つけることができないければ、彼はわたしを殺すでしょう。しかし、しもべは幼い時から主を恐れている者です。

18:13 イゼベルが主の預言者を殺した時に、わたしがした事、すなわち、わたしが主の預言者のうち百人を五十人ずつほら穴に隠して、パンと水をもって養った事を、わが主は聞かれませんでしたか。

18:14 ところが今あなたは『行って、エリヤはここにいると主人に告げよ』と言われる。そのようなことをすれば彼はわたしを殺すでしょう。

18:15 エリヤは言った、「わたしの仕える万軍の主は生きておられる。わたしは必ず、きょう、わたしの身を彼に示すであろう。」

18:16 オバデヤは行ってアハブに会い、彼に告げたので、アハブはエリヤに会おうとして行った。

18:17 アハブはエリヤを見たとき、彼に言った、「イスラエルを悩ます者よ、あなたはここにいるのですか」。

18:18 彼は答えた、「わたしがいイスラエルを悩ますものではありません。あなたと、あなたの父の家が悩ましたのです。あなたがたが主の命令を捨て、バアルに従ったためです。

18:19 それで今、人をつかわしてイスラエルのすべての人およびバアルの預言者四百五十人、ならびにアシラの預言者四百人、イゼベルの食卓で食事する者たちをカルメル山に集めて、わたしの所にこ

たい。」

18:20 アハブはイスラエルのすべての人々に使いを送り、預言者たちをカルメル山に集めた。

18:21 エリヤはすべての民に近づいて言った。「あなたたちは、いつまでどっちつかずに迷っているのか。もし主が神であるなら、主に従え。もしバアルが神であるなら、バアルに従え。」民はひと言も答えなかった。

18:22 エリヤは更に民に向かって言った。「わたしはただ一人、主の預言者として残った。バアルの預言者は四百五十人もいる。」

18:23 我々に二頭の雄牛を用意してもらいたい。彼らに一頭の雄牛を選ばせて、裂いて薪の上に載せ、火をつけずにおかせなさい。わたしも一頭の雄牛を同じようにして、薪の上に載せ、火をつけずにおく。

18:24 そこであなたたちはあなたたちの神の名を呼び、わたしは主の御名を呼ぶことにしよう。火をもって答える神こそ神であるはずだ。」民は皆、「それがいい」と答えた。

18:25 エリヤはバアルの預言者たちに言った。「あなたたちは大勢だから、まずあなたたちが一頭の雄牛を選んで準備し、あなたたちの神の名を呼びなさい。火をつけてはならない。」

18:26 彼らは与えられた雄牛を取って準備し、朝から真昼までバアルの名を呼び、「バアルよ、我々に答えてください」と祈った。しかし、声もなく答える者もなかった。彼らは築いた祭壇の周りを跳び回った。

18:27 真昼ごろ、エリヤは彼らを嘲って言った。「大声で呼ぶがいい。バアルは神なのだ。神は不満なのか、それとも人目を避けているのか、旅にでも出ているのか。恐らく眠っていて、起こしてもらわなければならないのだろう。」

18:28 彼らは大声を張り上げ、彼らのならわしに従って剣や槍で体を傷つけ、血を流すまでに至った。

18:29 真昼を過ぎて、彼らは狂ったように叫び続け、献げ物をささげる時刻に

させなさい。」

18:20 そこでアハブはイスラエルのすべての人に人をつかわして、預言者たちをカルメル山に集めた。

18:21 そのときエリヤはすべての民に近づいて言った、「あなたがたはいつまで二つのものの間に迷っているのですか。主が神ならばそれに従いなさい。しかしバアルが神ならば、それに従いなさい」。民はひと言も彼に答えなかった。

18:22 エリヤは民に言った、「わたしはただひとり残った主の預言者です。しかしバアルの預言者は四百五十人あります。」

18:23 われわれに二頭の牛をください。そして一頭の牛を彼らに選ばせ、それを切り裂いて、たきぎの上に載せ、それに火をつけずにおかせなさい。わたしも一頭の牛を整え、それをたきぎの上に載せて火をつけずにおきましょう。

18:24 こうしてあなたがたはあなたがたの神の名を呼びなさい。わたしは主の名を呼びましょう。そして火をもって答える神を神としましょう」。民は皆答えて「それがよからう」と言った。

18:25 そこでエリヤはバアルの預言者たちに言った、「あなたがたは大ぜいだから初めに一頭の牛を選んで、それを整え、あなたがたの神の名を呼びなさい。ただし火をつけてはなりません」。

18:26 彼らは与えられた牛を取って整え、朝から昼までバアルの名を呼んで「バアルよ、答えてください」と言った。しかしなんの声もなく、また答える者もなかった。彼らは自分たちの造った祭壇のまわりに踊った。

18:27 昼になってエリヤは彼らをあざけて言った、「彼は神だから、大声をあげて呼びなさい。彼は考えにふけているのか、よそへ行ったのか、旅に出たのか、または眠っていて起されなければならないのか」。

18:28 そこで彼らは大声に呼ばわり、彼らのならわしに従って、刀とやりで身を傷つけ、血をその身に流すに至った。

18:29 こうして昼が過ぎて彼らはなお叫び続けて、夕の供え物をささげる時に

なった。しかし、声もなく答える者もなく、何の兆候もなかった。

18:30 エリヤはすべての民に向かって、「わたしの近くに來なさい」と言った。すべての民が彼の近くに來ると、彼は壊された主の祭壇を修復した。

18:31 エリヤは、主がかつて、「あなたの名はイスラエルである」と告げられたヤコブの子孫の部族の数に従って、十二の石を取り、

18:32 その石を用いて主の御名のために祭壇を築き、祭壇の周りに種二セヤを入れることのできるほどの溝を掘った。

18:33 次に薪を並べ、雄牛を切り裂き、それを薪の上に載せ、

18:34 「四つの瓶に水を満たして、いけにえと薪の上にその水を注げ」と命じた。彼が「もう一度」と言うと、彼らはもう一度そうした。彼が更に「三度目を」と言うと、彼らは三度同じようにした。

18:35 水は祭壇の周りに流れ出し、溝にも満ちた。

18:36 献げ物をささげる時刻に、預言者エリヤは近くに来て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ、あなたがイスラエルにおいて神であられること、またわたしがあなたの僕であって、これらすべてのことをあなたの御言葉によって行ったことが、今日明らかになりますように。

18:37 わたしに答えてください。主よ、わたしに答えてください。そうすればこの民は、主よ、あなたが神であり、彼らの心を元に返したのは、あなたであることを知るでしょう。」

18:38 すると、主の火が降って、焼き尽くす献げ物と薪、石、塵を焼き、溝にあった水をもなめ尽くした。

18:39 これを見たすべての民はひれ伏し、「主こそ神です。主こそ神です」と言った。

18:40 エリヤは、「バアルの預言者どもを捕らえよ。一人も逃がしてはならない」と民に命じた。民が彼らを捕らえると、エリヤは彼らをキシオン川に連れて行って殺した。

まで及んだ。しかしなんの声もなく、答える者もなく、また顧みる者もなかった。

18:30 その時エリヤはすべての民にむかって「わたしに近寄りなさい」と言ったので、民は皆彼に近寄った。彼はこれをしている主の祭壇を繕った。

18:31 そしてエリヤは昔、主の言葉がヤコブに臨んで、「イスラエルをあなたの名とせよ」と言われたヤコブの子らの部族の数にしたがって十二の石を取り、

18:32 その石で主の名によって祭壇を築き、祭壇の周囲に種二セヤをいれるほどの大きさを、みぞを作った。

18:33 また、たきぎを並べ、牛を切り裂いてたきぎの上に載せて言った、「四つのかめに水を満たし、それを燔祭とたきぎの上に注げ」。

18:34 また言った、「それを二度せよ」。二度それをする、と、また言った、「三度それをせよ」。三度それをした。

18:35 水は祭壇の周囲に流れた。またみぞにも水を満たした。

18:36 夕の供え物をささげる時になって、預言者エリヤは近寄って言った、「アブラハム、イサク、ヤコブの神、主よ、イスラエルでは、あなたが神であること、わたしがあなたのしもべであって、あなたの言葉に従ってこのすべての事を行ったことを、今日知らせてください。

18:37 主よ、わたしに答えてください、わたしに答えてください。主よ、この民にあなたが神であること、またあなたが彼らの心を翻されたのであることを知らせてください」。

18:38 そのとき主の火が下って燔祭と、たきぎと、石と、ちりとを焼きつくし、またみぞの水をなめつくした。

18:39 民は皆見て、ひれ伏して言った、「主が神である。主が神である」。

18:40 エリヤは彼らに言った、「バアルの預言者を捕えよ。そのひとりも逃がしてはならない」。そこで彼らを捕えたので、エリヤは彼らをキシオン川に連れくだった、そこで彼らを殺した。

18:41 エリヤはアハブに言った。「上って行って飲み食いしなさい。激しい雨の音が聞こえる。」

18:42 アハブは飲み食いするために上って行き、エリヤはカルメルの頂上の上って行った。エリヤは地にうずくまり、顔を膝の間にうずめた。

18:43「上って来て、海の方をよく見なさい」と彼は従者に言った。従者は上って来て、よく見てから、「何もありません」と答えた。エリヤは、「もう一度」と命じ、それを七度繰り返した。

18:44 七度目に、従者は言った。「御覧ください。手のひらほどの小さい雲が海のかなたから上って来ます。」エリヤは言った。「アハブのところに上って行き、激しい雨に閉じ込められないうちに、馬を車につないで下って行くように伝えなさい。」

18:45 そうするうちに、空は厚い雲に覆われて暗くなり、風も出て来て、激しい雨になった。アハブは車に乗ってイズレエルに向かった。

18:46 主の御手がエリヤに臨んだので、エリヤは裾をからげてイズレエルの境までアハブの先を走って行った。

王上 19:1～16 (新共同訳)

19:1 アハブは、エリヤの行ったすべての事、預言者を剣で皆殺しにした次第をすべてイゼバルに告げた。

19:2 イゼバルは、エリヤに使者を送ってこう言わせた。「わたしが明日のこの時刻までに、あなたの命をあの前言者たちの一人の命のようにしていなければ、神々が幾重にもわたしを罰してくださるよう。」

19:3 それを聞いたエリヤは恐れ、直ちに逃げた。ユダのベエル・シェバに来て、自分の従者をそこに残し、

19:4 彼自身は荒野に入り、更に一日の道のりを歩き続けた。彼は一本のえにしだの木の下に来て座り、自分の命が絶えるのを願って言った。「主よ、もう十分です。わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまさる者ではありません。」

19:5 彼はえにしだの木の下で横になって眠ってしまった。御使いが彼に触れて言った。「起きて食べよ。」

18:41 エリヤはアハブに言った、「大雨の音がするから、上って行って、食い飲みしなさい」。

18:42 アハブは食い飲みするために上っていった。しかしエリヤはカルメルの頂に登り、地に伏して顔をひざの間に入れていたが、

18:43 彼はしもべに言った、「上って行って海の方を見なさい」。彼は上って行って、見て、「何もありません」と言ったので、エリヤは「もう一度行きなさい」と言って七度に及んだ。

18:44 七度目にしもべは言った、「海から人の手ほどの小さな雲が起っています」。エリヤは言った、「上って行って、『雨にとどめられないように車を整えて下れ』とアハブに言いなさい」。

18:45 すると間もなく、雲と風が起り、空が黒くなって大雨が降ってきた。アハブは車に乗ってエズレルへ行った。

18:46 また主の手がエリヤに臨んだので、彼は腰をからげ、エズレルの入口までアハブの前を走っていった。

王上 19:1～16 (口語訳)

19:1 アハブはエリヤのしたすべての事、また彼がすべての預言者を刀で殺したことをイゼバルに告げたので、

19:2 イゼバルは使者をエリヤにつかわして言った、「もしわたしが、あすの今ごろ、あなたの命をあの人々のひとりの命のようにしていないならば、神々がどんなにでも、わたしを罰してくださるよう」。

19:3 そこでエリヤは恐れて、自分の命を救うために立って逃げ、ユダに属するベエルシバへ行って、しもべをそこに残し、

19:4 自分は一日の道のりほど荒野にはいって行って、れだまの木の下に座し、自分の死を求めて言った、「主よ、もはや、じゅうぶんです。今わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまさる者ではありません」。

19:5 彼はれだまの木の下に伏して眠ったが、天の使が彼にさわり、「起きて食べなさい」と言ったので、

19:6 見ると、枕もとに焼き石で焼いたパン菓子と水の入った瓶があったので、エリヤはそのパン菓子を食べ、水を飲んで、また横になった。

19:7 主の御使いはもう一度戻って来てエリヤに触れ、「起きて食べよ。この旅は長く、あなたには耐え難いからだ」と言った。

19:8 エリヤは起きて食べ、飲んだ。その食べ物に力づけられた彼は、四十日四十夜歩き続け、ついに神の山ホレブに着いた。

19:9 エリヤはそこにあった洞穴に入り、夜を過ごした。見よ、そのとき、主の言葉があった。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」

19:10 エリヤは答えた。「わたしは万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました。ところが、イスラエルの人々はあなたとの契約を捨て、祭壇を破壊し、預言者たちを剣にかけて殺したのです。わたし一人だけが残り、彼らはこのわたしの命をも奪おうとねらっています。」

19:11 主は、「そこを出て、山の中で主の前に立ちなさい」と言われた。見よ、そのとき主が通り過ぎて行かれた。主の御前には非常に激しい風が起こり、山を裂き、岩を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風の後に地震が起こった。しかし、地震の中にも主はおられなかった。

19:12 地震の後に火が起こった。しかし、火の中にも主はおられなかった。火の後に、静かにささやく声が聞こえた。

19:13 それを聞くと、エリヤは外套で顔を覆い、出て来て、洞穴の入り口に立った。そのとき、声はエリヤにこう告げた。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」

19:14 エリヤは答えた。「わたしは万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました。ところが、イスラエルの人々はあなたとの契約を捨て、祭壇を破壊し、預言者たちを剣にかけて殺したのです。わたし一人だけが残り、彼らはこのわたしの命をも奪おうとねらっています。」

19:15 主はエリヤに言われた。「行け、あなたの来た道を引き返し、ダマスコの荒れ野に向かえ。そこに着いたなら、ハザエルに油を注いで彼をアラムの王とせよ。

19:6 起きて見ると、頭のそばに、焼け石の上で焼いたパン一個と、一びんの水があった。彼は食べ、かつ飲んでまた寝た。

19:7 主の使は再びきて、彼にさわって言った、「起きて食べなさい。道が遠くて耐えられないでしょうから」。

19:8 彼は起きて食べ、かつ飲み、その食物で力づいて四十日四十夜行って、神の山ホレブに着いた。

19:9 その所で彼はほら穴にはいって、そこに宿ったが、主の言葉が彼に臨んで、彼に言われた、「エリヤよ、あなたはここで何をしているのか」。

19:10 彼は言った、「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でありました。イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、刀をもってあなたの預言者たちを殺したのです。ただわたしだけ残りましたが、彼らはわたしの命を取ろうとしています」。

19:11 主は言われた、「出て、山の上で主の前に、立ちなさい」。その時主は通り過ぎられ、主の前に大きな強い風が吹き、山を裂き、岩を砕いた。しかし主は風の中におられなかった。風の後に地震があったが、地震の中にも主はおられなかった。

19:12 地震の後に火があったが、火の中にも主はおられなかった。火の後に静かな細い声が聞えた。

19:13 エリヤはそれを聞いて顔を外套に包み、出てほら穴の口に立つと、彼に語る声が聞えた、「エリヤよ、あなたはここで何をしているのか」。

19:14 彼は言った、「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でありました。イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、刀であなたの預言者たちを殺したからです。ただわたしだけ残りましたが、彼らはわたしの命を取ろうとしています」。

19:15 主は彼に言われた、「あなたの道を帰って行って、ダマスコの荒野におもむき、ダマスコに着いて、ハザエルに油を注ぎ、スリヤの王としなさい。

19:16 ニムシの子イエフにも油を注いでイスラエルの王とせよ。またアベル・メホラのシャファトの子エリシャにも油を注ぎ、あなたに代わる預言者とせよ。

19:16 またニムシの子エヒウに油を注いでイスラエルの王としなさい。またアベルメホラのシャパテの子エリシャに油を注いで、あなたに代って預言者としなさい。

月曜日 10月12日 真の預言者を見分ける

イスラエルの初期の歴史には、偽預言者の存在を示す証拠があります(申18:20)。ですから神は、ご自分の真の預言者が誰なのかということについて、ご自分の民に導きを与えずに放っておかれませんでした。

真の預言者は、神の啓示と靈感の受け手として、時には権力者から不評を買うことがあったとしても、神のメッセージを忠実に、正確に、正直に伝えました。

問3 列王記(列王紀)上 22:1~14 を読んでください。忠実な預言者の働き方について、この箇所はどんなことを教えてくれますか。

ある王が1人の預言者について、「彼はわたしに幸運を預言することがなく、災いばかり預言するので、わたしは彼を憎んでいます」〔口語訳「彼はわたしについて良い事を預言せず、ただ悪い事だけを預言するので、わたしは彼を憎んでいます」〕(王上22:8)と言ったことは、その王について多くのことを物語っていますが、それ以上にその預言者について物語っています。彼は明らかに、王に対しても真実を語ることを恐れない人物でした。控えめに言っても、それは王に気に入られるやり方ではありません。

ミカヤは、400人の偽預言者に独りで立ち向かい、啓示された真理を伝えました。邪悪なアハブ王とその妻イゼベルをなだめるために、主からの否定的なメッセージを変えるよう強要されたにもかかわらず(王上22:13、14)、ミカヤは、それがどう受け止められようと、神の真理を伝えたのです。

問4 サムエル記上 9:3~14 を読んでください。この箇所は、人々が神の忠実な預言者をどのように見ていたかについて、どんなことを教えてくれますか。

聖書には、預言者たちの生き方の質を示す例が数多く記されています。この場面では、サウルが父親のキシュ(キシ)から、姿を消したろぼを探すように送り出されます。サウルと共に旅をしていた僕は、搜索を諦めないように勧めます。「この町に神の人がおられ……尊敬されている人」〔口語訳「この町には神の人がおられ……尊い人」〕(サム上9:6)だったからです。ここに記されている預言者サムエルに関する描写は、神の預言者に期待される資質をあらわしています。聖書における真の預言者は「神の人」と見なされ、神の品性を体現するために選ばれました。しかし同

時に、「神の人」の中に預言者が含まれるからといって、彼らが欠点のない人間であるとは限りません。

【参考】英語テキストにある英文

Who, even among the most esteemed “men of God,” have you known to be flawless?

最も尊敬されている「神の人(預言者)」たちであっても、あなたが知る限り、欠点のない人間など一人もいないのではないのでしょうか。

20

申 18:20 (新共同訳)

18:20 ただし、その預言者がわたしの命じていないことを、勝手にわたしの名によって語り、あるいは、他の神々の名によって語るならば、その預言者は死なねばならない。」

王上 22:1～14 (新共同訳)

22:1 三年間、アラムとイスラエルの間には戦いがなかった。

22:2 三年目になって、ユダの王ヨシャファトがイスラエルの王のところに下って来た。

22:3 イスラエルの王は家臣たちに、「お前たちはラモト・ギレアドが我々のものであることを知っているであろう。我々は何もせずにて、アラムの王の手からそれを奪い返せないままにいる」と言った。

22:4 それから、ヨシャファトに向かって、「わたしと共に行って、ラモト・ギレアドと戦っていただけませんか」と尋ねた。ヨシャファトはイスラエルの王に答えた。「わたしはあなたと一体、わたしの民はあなたの民と一体、わたしの馬はあなたの馬と一体です。」

22:5 しかし同時にヨシャファトはイスラエルの王に、「まず主の言葉を求めてください」と言った。

22:6 イスラエルの王は、約四百人の預言者を召集し、「わたしはラモト・ギレアドに行って戦いを挑むべきか、それとも控えるべきか」と問うた。彼らは、「攻め上ってください。主は、王の手にこれをお渡しになります」と答えた。

申 18:20 (口語訳)

18:20 ただし預言者が、わたしが語れと命じないことを、わたしの名によってほしいままに語り、あるいは他の神々の名によって語るならば、その預言者は殺さなければならない。」

王上 22:1～14 (口語訳)

22:1 スリヤとイスラエルの間に戦争がなくて三年を経た。

22:2 しかし三年目にユダの王ヨシャパテがイスラエルの王の所へ下っていったので、

22:3 イスラエルの王はその家来たちに言った、「あなたがたは、ラモテ・ギレアドがわれわれの所有であることを知っていますか。しかもなおわれわれはスリヤの王の手からそれを取らずに黙っているのです」。

22:4 彼はヨシャパテに言った、「ラモテ・ギレアドで戦うためにわたしと一緒に行かれませんか」。ヨシャパテはイスラエルの王に言った、「わたしはあなたと一つです。わたしの民はあなたの民と一つです。わたしの馬はあなたの馬と一つです」。

22:5 ヨシャパテはまたイスラエルの王に言った、「まず、主の言葉を伺いなさい」。

22:6 そこでイスラエルの王は預言者四百人ばかりを集めて、彼らに言った、「わたしはラモテ・ギレアドに戦いに行くべきでしょうか、あるいは控えるべきでしょうか」。彼らは言った、「上っていきなさい。主はそれを王の手にわたされるでしょう」。

22:7 しかし、ヨシャファトが、「ここには、このほかに我々が尋ねることのできる主の預言者はいないのでか」と問うと、

22:8 イスラエルの王はヨシャファトに答えた。「もう一人、主の御旨を尋ねることのできる者がいます。しかし、彼はわたしに幸運を預言することがなく、災いばかり預言するので、わたしは彼を憎んでいます。イムラの子ミカヤという者です。」ヨシャファトは、「王よ、そのように言っではなりません」といさめた。

22:9 そこでイスラエルの王は一人の宦官を呼び、「イムラの子ミカヤを急いで連れて来るように」と言った。

22:10 イスラエルの王はユダの王ヨシャファトと共に、サマリヤの城門の入り口にある麦打ち場で、それぞれ正装して王座に着いていた。預言者たちは皆、その前に出て預言していた。

22:11 ケナアナの子ツイドキヤが数本の鉄の角を作って、「主はこう言われる。これをもってアラムを突き、殲滅せよ」と言う、

22:12 他の預言者たちも皆同様に預言して、「ラモト・ギレアデに攻め上って勝利を得てください。主は敵を王の手にお渡しになります」と言った。

22:13 ミカヤを呼びに行った使いの者は、ミカヤにこう言い含めた。「いいですか。預言者たちは口をそろえて、王に幸運を告げています。どうかあなたも、彼らと同じように語り、幸運を告げてください。」

22:14 ミカヤは、「主は生きておられる。主がわたしに言われる事をわたしは告げる」と言って、

サム上 9:3~14 (新共同訳)

9:3 あるとき、サウルの父キシのろばが数頭、姿を消した。キシはその子サウルに言いつけた。「若い者を一人連れて、ろばを捜しに行ってくれ。」

9:4 彼はエフライムの山地を越え、シャリシャの地を過ぎて行ったが、ろばを見つけ出せず、シャアリムの地を越えてもそこにはおらず、ベニヤミンの地を越えても見つけ出せなかった。

9:5 ツフの地に来たとき、サウルは供の若者に言った。「さあ、もう帰ろう。父が、

22:7 ヨシャパテは言った、「ここには、われわれの問うべき主の預言者がほかにいませんか」。

22:8 イスラエルの王はヨシャパテに言った、「われわれが主に問うことのできる人が、まだひとりいます。イムラの子ミカヤです。彼はわたしについて良い事を預言せず、ただ悪い事だけを預言するので、わたしは彼を憎んでいます」。ヨシャパテは言った、「王よ、そう言わないでください」。

22:9 そこでイスラエルの王は役人を呼んで、「急いでイムラの子ミカヤを連れてきなさい」と言った。

22:10 さてイスラエルの王およびユダの王ヨシャパテは王の服を着て、サマリヤの門の入口の広場に、おのおのその王座にすわり、預言者たちは皆その前で預言していた。

22:11 ケナアナの子ゼデキヤは鉄の角を造って言った、「主はこう仰せられます、『あなたはこれらの角をもってスリヤびとを突いて彼らを滅ぼしなさい』」。

22:12 預言者たちは皆そのように預言して言った、「ラモテ・ギレアデに上って行って勝利を得なさい。主はそれを王の手になすべし」と言った。

22:13 さてミカヤを呼びにいった使者は彼に言った、「預言者たちは一致して王に良い事を言いました。どうぞ、あなたも、彼らのひとりの言葉のようにして、良い事を言ってください」。

22:14 ミカヤは言った、「主は生きておられます。主がわたしに言われる事を申しましょう」。

サム上 9:3~14 (口語訳)

9:3 サウルの父キシの数頭のろばがいなくなった。そこでキシは、その子サウルに言った、「しもべをひとり連れて、立って行き、ろばを捜してきなさい」。

9:4 そこでふたりはエフライムの山地を通りすぎ、シャリシャの地を通り過ぎたけれども見当らず、シャリムの地を通り過ぎたけれどもおらず、ベニヤミンの地を通り過ぎたけれども見当らなかった。

9:5 彼らがツフの地にきた時、サウルは連れてきたしもべに言った、「さあ、帰ろ

ろばはともかくとして、わたしたちを氣遣うといけない。」

9:6 若者は答えた。「ちょうどこの町に神の人がおられます。尊敬されている人で、その方のおっしゃることは、何でもそのとおりになります。その方を訪ねてみましょう。恐らくわたしたちの進むべき道について、何か告げてくださるでしょう。」

9:7 サウルは若者に言った。「訪ねるとしても、その人に何を持参できよう。袋にパンはもうないし、神の人に持参する手土産はない。何か残っているか。」

9:8 若者はまたサウルに答えて言った。

「御覧ください。ここに四分の一シケルの銀があります。これを神の人に差し上げて、どうしたらよいのか教えていただきましょう。」

9:9 昔、イスラエルでは神託を求めに行くとき、先見者のところへ行くと云った。今日の預言者を昔は先見者と呼んでいた。

9:10 サウルは若者に言った。「それはいい。さあ行こう。」彼らは神の人がいる町に向かった。

9:11 町に通じる坂を上って行くと、水くみに出て来た娘たちに出会った。彼らは彼女たちに尋ねた。「ここに先見者がおられますか。」

9:12 娘たちは答えて言った。「はい、おられます。この先です。お急ぎなさい。今日、この町に来られたのです。聖なる高台で民のためにいけにえがささげられるのは今日なのです。」

9:13 町に入るとすぐ、あの方に会えるでしょう。あの方は食事のために聖なる高台に上られるところです。人々は、あの方が来られるまでは食べません。あの方がいけにえを祝福してくださるからです。祝福が終わると、招かれた者が食べるのです。今上って行けば、すぐにあの方に会えるでしょう。」

9:14 二人が町に上り、町の中に入って行こうとしたとき、サムエルも聖なる高台に上ろうと向こうからやって来た。

う。父は、ろばのことよりも、われわれのことを心配するだろう」。

9:6 ところが、しもべは言った、「この町には神の人がおられます。尊い人で、その言われることはみなそのとおりになります。その所へ行きましょう。われわれの出てきた旅のことについて何か示されるでしょう」。

9:7 サウルはしもべに言った、「しかし行くのであれば、その人に何を贈ろうか。袋のパンはもはや、なくなり、神の人に持っていく贈り物が無い。何かありますか」。

9:8 しもべは、またサウルに答えた、「わたしの手に四分の一シケルの銀があります。わたしはこれを、神の人に与えて、われわれの道を示してもらいましょう」。

9:9——昔イスラエルでは、神に問うために行く時には、こう言った、「さあ、われわれは先見者のところへ行こう」。今の預言者は、昔は先見者といわれていたのである。——

9:10 サウルはそのしもべに言った、「それは良い。さあ、行こう」。こうして彼らは、神の人のいるその町へ行行った。

9:11 彼らは町へ行く坂を上っている時、水をくむために出てくるおとめたちに出会ったので、彼らに言った、「先見者はここにおられますか」。

9:12 おとめたちは答えた、「おられます。ごらんなさい、この先です。急いで行きなさい。民がきょう高き所で犠牲をささげるので、たった今、町にこられたところです。」

9:13 あなたがたは、町にはいるとすぐ、あのかたが高き所に上って食事される前に会えるでしょう。民はそのかたがこられるまでは食事をしません。あのかたが犠牲を祝福されてから、招かれた人々が食事をするのです。さあ、上っていきなさい。すぐに会えるでしょう」。

9:14 こうして彼らは町に上っていった。そして町の中に、はいるとした時、サムエルは高き所に上るため彼らのほうに向かって出てきた。

問5 サムエル記上 8:4～22 とレビ記 8:10～13 を読んでください。預言者は王や祭司との関係において、どのように役割を果たしましたか。

預言者は、愉快的状況でも不愉快的状況でも、王と関わりました。イスラエルが王を求めたとき(サム上 8:4～22)、彼らは、「ほかのすべての国々のように、我々のために裁きを行う王を立ててください」〔口語訳「今ほかの国々のように、われわれをさばく王を、われわれのために立ててください」〕(同 8:5)と言いました。これは、神の民がどの時代にも直面してきた危険、すなわち周囲の人々のようになりたいという願望の、なんと悲しい、しかし説得力のある例でしょう。この時、彼らは預言者を通して神から事前に警告されていたにもかかわらず(同 8:11～18)、この願いが何をもたらすのか、わかっていませんでした。彼らの願いに基づき、警告はしたもの、サムエルは間もなくイスラエルの最初の王(聖書の歴史においてサウル王として知られる人物)に油を注ぎました。

旧約聖書の列王記(列王紀)上下、歴代誌(歴代志)上下には、〔北王国〕イスラエルと〔南王国〕ユダの王たちがどんな統治をしたのかが記録されています。聖なる歴史は、悪を行った王の数が、神の目に善を行った王の数をはるかに上回っていたことを示しています。預言者の中心的な役割の一つは、不忠実な王が神の律法に従うよう導くことでした。その結果、これらの預言者たちは脅威に直面し、中には、神の民を神から引き離れた王たちによって危害を加えられたり、殺されたりした者もいました(王上 18:4～19、代下 24:20～22)。

預言者は祭司とも交流がありました。神の預言者モーセは、イスラエルの最初の祭司として、アロンとその息子たちに油を注ぎました(レビ 8:10～13)。祭司たちは預言者を通して神からの叱責の言葉を受けることもありましたが(ホセ 6:9、マラ 2:1～3)。その特筆すべき例の一つは、エリの家族全員が腐敗行為のゆえに厳しい責めを受けたことです(サム上 2:27～36)。これは、特権を与えられた人々の間に蔓延する腐敗への非常に強い叱責でした。

預言者は民の教師でした(代下 34 章)。彼らは、祭司、王、国民に、神からのメッセージを伝えました(エレ 5:31、エゼ 22:26)。預言者はまた、周辺の諸国民にも語りかけ、神の計画を伝えましたが、それは旧約聖書の預言者のメッセージの中で何度も繰り返されている主題です(イザ 60:1～3、62:1、2)。預言者は、神から与えられたメッセージを忠実に伝えることを期待されただけでなく、時にはそれを書き留めて保存するように指示されることもありましたが(代下 13:22)。繰り返しますが、預言者がどれほど人間的であったとしても(また、それに伴うあらゆる弱さを持っていたとしても)、彼らは、祈りの人、御言葉の人、神とその民に奉仕する人でした(エレ 42:4、王下 22:15～17)。

サム上 8:4～22 (新共同訳)

8:4 イスラエルの長老は全員集まり、ラマのサムエルのもとに来て、

8:5 彼に申し入れた。「あなたは既に年を取られ、息子たちはあなたの道を歩んでいません。今こそ、ほかのすべての国々のように、我々のために裁きを行う王を立ててください。」

8:6 裁きを行う王を与えよとの彼らの言い分は、サムエルの目には悪と映った。そこでサムエルは主に祈った。

8:7 主はサムエルに言われた。「民があなたに言うままに、彼らの声に従うがよい。彼らが退けたのはあなたではない。彼らの上にわたしが王として君臨することを退けているのだ。」

8:8 彼らをエジプトから導き上った日から今日に至るまで、彼らのすることといえば、わたしを捨てて他の神々に仕えることだった。あなたに対しても同じことをしているのだ。」

8:9 今は彼らの声に従いなさい。ただし、彼らにはっきり警告し、彼らの上に君臨する王の権能を教えておきなさい。」

8:10 サムエルは王を要求する民に、主の言葉をことごとく伝えた。

8:11 彼はこう告げた。「あなたたちの上に君臨する王の権能は次のとおりである。まず、あなたたちの息子を徴用する。それは、戦車兵や騎兵にして王の戦車の前を走らせ、

8:12 千人隊の長、五十人隊の長として任命し、王のための耕作や刈り入れに従事させ、あるいは武器や戦車の用具を造らせるためである。

8:13 また、あなたたちの娘を徴用し、香料作り、料理女、パン焼き女にする。

8:14 また、あなたたちの最上の畑、ぶどう畑、オリーブ畑を没収し、家臣に分け与える。

8:15 また、あなたたちの穀物とぶどうの十分の一を徴収し、重臣や家臣に分け与える。

サム上 8:4～22 (口語訳)

8:4 この時、イスラエルの長老たちはみな集まってラマにおけるサムエルのもとにきて、

8:5 言った、「あなたは年若い、あなたの子たちはあなたの道を歩まない。今ほかの国々のように、われわれをさばく王を、われわれのために立ててください」。

8:6 しかし彼らが、「われわれをさばく王を、われわれに与えよ」と言うのを聞いて、サムエルは喜ばなかった。そしてサムエルが主に祈ると、

8:7 主はサムエルに言われた、「民が、すべてあなたに言う所の声に聞き従いなさい。彼らが捨てるのはあなたではなく、わたしを捨てて、彼らの上にわたしが王であることを認めないのである。」

8:8 彼らは、わたしがエジプトから連れ上った日から、きょうまで、わたしを捨ててほかの神々に仕え、さまざまの事をわたしにしたように、あなたにもしているのである。」

8:9 今その声に従いなさい。ただし、深く彼らを戒めて、彼らを治める王のならわしを彼らに示さなければならない」。

8:10 サムエルは王を立てることを求める民に主の言葉をことごとく告げて、

8:11 言った、「あなたがたを治める王のならわしは次のとおりである。彼はあなたがたのむすこを取って、戦車隊に入れ、騎兵とし、自分の戦車の前に走らせるであろう。」

8:12 彼はまたそれを千人の長、五十人の長に任じ、またその地を耕させ、その作物を刈らせ、またその武器と戦車の装備を造らせるであろう。」

8:13 また、あなたがたの娘を取って、香をつくる者とし、料理をする者とし、パンを焼く者とするであろう。」

8:14 また、あなたがたの畑とぶどう畑とオリーブ畑の最も良い物を取って、その家来に与え、

8:15 あなたがたの穀物と、ぶどう畑の、十分の一を取って、その役人と家来に与え、

8:16 あなたたちの奴隷、女奴隷、若者のうちのすぐれた者や、ろばを徴用し、王のために働かせる。

8:17 また、あなたたちの羊の十分の一を徴収する。こうして、あなたたちは王の奴隷となる。

8:18 その日あなたたちは、自分が選んだ王のゆえに、泣き叫ぶ。しかし、主はその日、あなたたちに答えてはくださらない。」

8:19 民はサムエルの声に聞き従おうとせず、言い張った。「いいえ。我々にはどうしても王が必要なのです。」

8:20 我々もまた、他のすべての国民と同じようになり、王が裁きを行い、王が陣頭に立って進み、我々の戦いをたたかうのです。」

8:21 サムエルは民の言葉をことごとく聞き、主の耳に入れた。

8:22 主はサムエルに言われた。「彼らの声に従い、彼らに王を立てなさい。」サムエルはイスラエルの人々に言った。「それぞれ、自分の町に帰りなさい。」

レビ 8:10～13 (新共同訳)

8:10 続いてモーセは聖別の油を幕屋とその中のすべてのものに注いで清め、

8:11 その油の一部を祭壇に七度振りまき、祭壇とすべての祭具、洗盤およびその台に注ぎかけて聖別した。

8:12 次に、聖別の油の一部をアロンの頭に注ぎ、彼を聖別し、

8:13 続いて主の命じられたとおり、モーセはアロンの子らを進み出させ、彼らに長い服を着せ、飾り帯を締め、頭にターバンを巻いた。

王上 18:4～19 (新共同訳)

18:4 イゼベルが主の預言者を切り殺したとき、百人の預言者を救い出し、五十人ずつ洞穴にかくまい、パンと水をもって養った――。

18:5 アハブはオバデヤに言った。「この地のすべての泉、すべての川を見回ってくれ。馬やらばを生かしておく草が見つかり、家畜を殺さずに済むかもしれない。」

8:16 また、あなたがたの男女の奴隷および、あなたがたの最も良い牛とろばを取って、自分のために働かせ、

8:17 また、あなたがたの羊の十分の一を取り、あなたがたは、その奴隷となるであろう。

8:18 そしてその日あなたがたは自分のために選んだ王のゆえに呼ばれるであろう。しかし主はその日にあなたがたに答えられないであろう。」

8:19 ところが民はサムエルの声に聞き従うことを拒んで言った、「いいえ、われわれを治める王がなければならない。」

8:20 われわれも他の国々のようになり、王がわれわれをさばき、われわれを率いて、われわれの戦いにたたかうのである。」

8:21 サムエルは民の言葉をことごとく聞いて、それを主の耳に告げた。

8:22 主はサムエルに言われた、「彼らの声に従い、彼らのために王を立てよ」。サムエルはイスラエルの人々に言った、「あなたがたは、めいめいその町に帰りなさい」。

レビ 8:10～13 (口語訳)

8:10 モーセはまた注ぎ油を取り、幕屋とそのうちのすべての物に油を注いでこれを聖別し、

8:11 かつ、それを七たび祭壇に注ぎ、祭壇とそのもろもろの器、洗盤とその台に油を注いでこれを聖別し、

8:12 また注ぎ油をアロンの頭に注ぎ、彼に油を注いでこれを聖別した。

8:13 モーセはまたアロンの子たちを連れてきて、服を彼らに着させ、帯を彼らに締めさせ、頭巾を頭に巻かせた。主がモーセに命じられたとおりである。

王上 18:4～19 (口語訳)

18:4 イゼベルが主の預言者を断ち滅ぼした時、オバデヤは百人の預言者を救い出して五十人ずつほら穴に隠し、パンと水をもって彼らを養った)。

18:5 アハブはオバデヤに言った、「国中のすべての水の源と、すべての川に行ってみるがよい。馬と驃馬を生かしておくための草があるかもしれない。そうすれば、われわれは家畜をいくぶんでも失わ

18:6 彼らは国を分けて巡ることにし、アハブは一人で一つの道を行き、オバドヤも一人でほかの道を行った。

18:7 オバドヤが道を歩いていると、エリヤが彼に会いに来た。オバドヤはそれがエリヤだと分かって、ひれ伏し、「あなたは、エリヤさまではありませんか」と言った。

18:8 エリヤは彼に言った。「そうです。あなたの主君のもとに行って、エリヤがここにいる、と言ってください。」

18:9 オバドヤは言った。「わたしにどんな罪があって、あなたは僕をアハブの手に渡し、殺そうとなさるのですか。」

18:10 あなたの神、主は生きておられます。わたしの主君があなたを捜し出そうとして人を送らなかった民や国はないのです。彼らが、『エリヤはここにいない』と言えば、王はその国や民に、エリヤは見つからなかったと誓わせるほどです。

18:11 今あなたは、『エリヤがここにいる、とあなたの主君アハブに言いに行きなさい』と言われる。

18:12 しかし、わたしがあなたを離れれば、主の霊はあなたをわたしの知らないところに連れて行くでしょう。わたしがアハブに知らせに行っても、あなたが見つからなければ、わたしは殺されます。僕は幼いころから、主を畏れ敬っております。

18:13 イゼベルが主の預言者を殺したときにわたしがしたことを、あなたは知らされてはいないのですか。わたしは主の預言者百人を五十人ずつ洞穴にかくまい、パンと水をもって養いました。

18:14 今あなたは、『エリヤがここにいる、とあなたの主君に言いに行きなさい』と言われる。わたしは殺されてしまいました。」

18:15 エリヤはこう答えた。「わたしの仕えている万軍の主は生きておられます。今日わたしはアハブの前に姿を現します。」

18:16 オバドヤはアハブに会って知らせたので、アハブはエリヤに会いに来た。

18:17 アハブはエリヤを見ると、「お前か、イスラエルを煩わす者よ」と言った。

ずにすむであろう」。

18:6 彼らは行き巡る地をふたりで分け、アハブはひとりでこの道を行き、オバデヤはひとりで他の道を行った。

18:7 オバデヤが道を進んでいた時、エリヤが彼に会った。彼はエリヤを認めて伏して言った、「わが主エリヤよ、あなたはここにおられるのですか」。

18:8 エリヤは彼に言った、「そうです。行って、あなたの主人に、エリヤはここにいると告げなさい」。

18:9 彼は言った、「わたしにどんな罪があって、あなたはしもべをアハブの手にわたして殺そうとされるのですか」。

18:10 あなたの神、主は生きておられます。わたしの主人があなたを尋ねるために、人をつかわさない民はなく、国もありません。そしてエリヤはいないと言う時は、その国、その民に、あなたが見つからないという誓いをさせるのです。

18:11 あなたは今『行って、エリヤはここにいると主人に告げよ』と言われる。

18:12 しかしわたしがあなたを離れて行くと、主の霊はあなたを、わたしの知らない所へ連れて行くでしょう。わたしが行ってアハブに告げ、彼があなたを見つけることができれば、彼はわたしを殺すでしょう。しかし、しもべは幼い時から主を恐れている者です。

18:13 イゼベルが主の預言者を殺した時に、わたしがした事、すなわち、わたしが主の預言者のうち百人を五十人ずつほら穴に隠して、パンと水をもって養った事を、わが主は聞かれませんでしたか。

18:14 ところが今あなたは『行って、エリヤはここにいると主人に告げよ』と言われる。そのようなことをすれば彼はわたしを殺すでしょう」。

18:15 エリヤは言った、「わたしの仕える万軍の主は生きておられる。わたしは必ず、きょう、わたしの身を彼に示すであろう」。

18:16 オバデヤは行ってアハブに会い、彼に告げたので、アハブはエリヤに会おうとして行った。

18:17 アハブはエリヤを見たとき、彼に言った、「イスラエルを悩ます者よ、あな

18:18 エリヤは言った。「わたしではなく、主の戒めを捨て、バアルに従っているあなたとあなたの父の家こそ、イスラエルを煩わしている。

18:19 今はイスラエルのすべての人々を、イゼベルの食卓に着く四百五十人のバアルの預言者、四百人のアシェラの預言者と共に、カルメル山に集め、わたしの前に出そうように使いを送っていただきたい。」

代下 24:20～22 (新共同訳)

24:20 神の霊が祭司ヨヤダの子ゼカルヤを捕らえた。彼は民に向かって立ち、語った。「神はこう言われる。『なぜあなたたちは主の戒めを破るのか。あなたたちは栄えない。あなたたちが主を捨てたから、主もあなたたちを捨てる。』」

24:21 ところが彼らは共謀し、王の命令により、主の神殿の庭でゼカルヤを石で打ち殺した。

24:22 ヨアシュ王も、彼の父ヨヤダから寄せられた慈しみを顧みず、その息子を殺した。ゼカルヤは、死に際して言った。「主がこれを御覧になり、責任を追及してくださいますように。」

ホセ 6:9 (新共同訳)

6:9 祭司の一団は待ち伏せる強盗のように/シケムへの道で人を殺す。なんという悪事を彼らは行うことか。

マラ 2:1～3 (新共同訳)

2:1 祭司たちよ、今あなたたちにこの命令が下される。

2:2 もし、あなたたちがこれを聞かず、心に留めず、わたしの名に栄光を帰さないなら、と万軍の主は言われる。わたしはあなたたちに呪いを送り、祝福を呪いに変える。いや既に呪いに変えてしまった。これを心に留める者があなたたちの間に一人もいなかったからだ。

2:3 見よ、わたしはあなたたちの子孫を脅かし/あなたたちの顔に汚物を浴びせる。それは祭りの犠牲の捨てられたものだ。あなたたちは、その上に投げ捨てられる。

たはここにいるのですか)。

18:18 彼は答えた、「わたしはイスラエルを悩ますものではありません。あなたと、あなたの父の家が悩ましたのです。あなたがたが主の命令を捨て、バアルに従ったためです。

18:19 それで今、人をつかわしてイスラエルのすべての人およびバアルの預言者四百五十人、ならびにアシラの預言者四百人、イゼベルの食卓で食事する者たちをカルメル山に集めて、わたしの所にこさせなさい)。

代下 24:20～22 (口語訳)

24:20 そこで神の霊が祭司エホヤダの子ゼカリヤに臨んだので、彼は民の前に立ち上がって言った、「神はこう仰せられる、『あなたがたが主の戒めを犯して、災を招くのはどういうわけであるか。あなたがたが主を捨てたために、主もあなたがたを捨てられたのである』」。

24:21 しかし人々は彼を書しようと計り、王の命によって、石をもって彼を主の宮の庭で撃ち殺した。

24:22 このようにヨアシ王はゼカリヤの父エホヤダが自分に施した恵みを思わず、その子殺した。ゼカリヤは死ぬ時、「どうぞ主がこれをみそなわして罰せられるように」と言った。

ホセ 6:9 (口語訳)

6:9 盗賊が人を待ち伏せるように、祭司たちは党を組み、シケムへ行く道で人を殺す。このように彼らは悪しき事を行う。

マラ 2:1～3 (口語訳)

2:1 祭司たちよ、今この命令があなたがたに与えられる。

2:2 万軍の主は言われる、あなたがたがもし聞き従わず、またこれを心に留めず、わが名に栄光を帰さないならば、わたしはあなたがたの上に、のろいを送り、またあなたがたの祝福をのろいに変える。あなたがたは、これを心に留めないの、わたしはすでにこれをのろった。

2:3 見よ、わたしはあなたがたの子孫を責める。またあなたがたの犠牲の糞を、あなたがたの顔の上にまき散らし、あなたがたをわたしの前から退ける。

サム上 2:27~36 (新共同訳)

2:27 神の人がエリのもとに来て告げた。「主はこう言われる。あなたの先祖がエジプトでファラオの家に服従していたとき、わたしは自らをあなたの先祖に明らかに示し、

2:28 わたしのためにイスラエルの全部族の中からあなたの先祖を選んで祭司とし、わたしの祭壇に上って香をたかせ、エフォドを着せてわたしの前に立たせた。また、わたしはあなたの先祖の家に、イスラエルの子らが燃やして主にささげる物をすべて与えた。

2:29 あなたはなぜ、わたしが命じたいけにえと献げ物をわたしの住む所でないがしろにするのか。なぜ、自分の息子をわたしよりも大事にして、わたしの民イスラエルが供えるすべての献げ物の中から最上のもを取って、自分たちの私腹を肥やすのか。

2:30 それゆえ、イスラエルの神、主は言われる。わたしは確かに、あなたの家とあなたの先祖の家とはこしえにわたしの前に歩む、と約束した。主は言われる。だが、今は決してそうはさせない。わたしを重んずる者をわたしは重んじ、わたしを侮る者をわたしは軽んずる。

2:31 あなたの家に長命の者がいなくなるように、わたしがあなたの腕とあなたの先祖の家の腕を切り落とす日が来る。

2:32 あなたは、わたしの住む所がイスラエルに与える幸いをすべて敵視するようになる。あなたの家には永久に長命の者はいなくなる。

2:33 わたしは、あなたの家の一人だけは、わたしの祭壇から断ち切らないでおく。それはあなたの目をくらまし、命を尽きさせるためだ。あなたの家の男子がどれほど多くとも皆、壮年のうちに死ぬ。

2:34 あなたの二人の息子ホフニとピネハスの身に起こることが、あなたにとってそのしるしとなる。二人は同じ日に死ぬ。

2:35 わたしはわたしの心、わたしの望みのままに事を行う忠実な祭司を立て、彼

サム上 2:27~36 (口語訳)

2:27 このとき、ひとりの神の人が、エリのもとにきて言った、「主はかく仰せられる、『あなたの先祖の家がエジプトでパロの家の奴隷であったとき、わたしはその先祖の家に自らを現した。』

2:28 そしてイスラエルのすべての部族のうちからそれを選び出して、わたしの祭司とし、わたしの祭壇に上って、香をたかせ、わたしの前でエフォドを着けさせ、また、イスラエルの人々の火祭をことごとくあなたの先祖の家に与えた。

2:29 それにどうしてあなたがたは、わたしが命じた犠牲と供え物をむさぼりの目をもって見るのか。またなにゆえ、わたしよりも自分の子らを尊び、わたしの民イスラエルのささげるもろもろの供え物の、最も良き部分をもって自分を肥やすのか。』

2:30 それゆえイスラエルの神、主は仰せられる、『わたしはかつて、「あなたの家とあなたの父の家とは、永久にわたしの前に歩むであろう」と言った。』しかし今、主は仰せられる、『決してそうはしない。わたしを尊ぶ者を、わたしは尊び、わたしを卑しめる者は、軽んぜられるであろう。』

2:31 見よ、日が来るであろう。その日、わたしはあなたの力と、あなたの父の家の力を断ち、あなたの家に年老いた者をなくするであろう。

2:32 そのとき、あなたは災のうちにあって、イスラエルに与えられるもろもろの繁栄を、ねたみ見るであろう。あなたの家には永久に年老いた者がいなくなるであろう。

2:33 しかしあなたの一族のひとりを、わたしの祭壇から断たないであろう。彼は残されてその目を泣きはらし、心を痛めるであろう。またあなたの家に生れ出るものは、みなつるぎに死ぬであろう。

2:34 あなたのふたりの子ホフニとピネハスの身に起こることが、あなたのためにそのしるしとなるであろう。すなわちそのふたりは共に同じ日に死ぬであろう。

2:35 わたしは自分のために、ひとりの忠実な祭司を起す。その人はわたしの心と

の家を確かなものとしよう。彼は生涯、わたしが油を注いだ者の前を歩む。

2:36 あなたの家の生き残った者は皆、彼のもとに来て身をかがめ、銀一枚、パン一切れを乞い、『一切れのパンでも食べられるように、祭司の仕事の一つに就かせてください』と言うであろう。』

※歴代誌（歴代志）下 34 章は各自お手元の聖書をお読みください。

エレ 5:31 （新共同訳）

5:31 預言者は偽りの預言をし/祭司はその手に富をかき集め/わたしの民はそれを喜んでゐる。その果てに、お前たちはどうするつもりか。』

エゼ 22:26 （新共同訳）

22:26 祭司たちはわたしの律法を犯し、わたしの聖なるものを汚した。彼らは聖と俗とを区別せず、浄と汚れの区別を教えず、わたしの安息日に目を覆った。こうして、わたしは彼らの間で汚されている。

イザ 60:1～3 （新共同訳）

60:1 起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り/主の栄光はあなたの上に輝く。

60:2 見よ、闇は地を覆い/暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出で/主の栄光があなたの上に現れる。

60:3 国々はあなたを照らす光に向かい/王たちは射出でその輝きに向かって歩む。

イザ 62:1、2 （新共同訳）

62:1 シオンのために、わたしは決して口を閉ざさず/エルサレムのために、わたしは決して黙さない。彼女の正しさが光と輝き出で/彼女の救いが松明のように燃え上がるまで。

62:2 諸国の民はあなたの正しさを見/王はすべて、あなたの栄光を仰ぐ。主の口が定めた新しい名をもって/あなたは呼ばれるであろう。

代下 13:22 （新共同訳）

13:22 アビヤの他の事績、その言動は、『預言者イドの解説』に記されている。

思いとに従って行かうであらう。わたしはその家を確立しよう。その人はわたしが油そそいだ者の前につねに歩むであらう。

2:36 そしてあなたの家で生き残っている人々はみなきて、彼に一枚の銀と一個のパンを請い求め、「どうぞ、わたしを祭司の職の一つに任じ、一口のパンでも食べることができるようにしてください」と言うであらう。』

エレ 5:31 （口語訳）

5:31 預言者は偽って預言し、祭司は自分の手によって治め、わが民はこうにすることを愛している。しかしあなたがたはその終りにはどうするつもりか。

エゼ 22:26 （口語訳）

22:26 その祭司たちはわが律法を犯し、聖なる物を汚した。彼らは聖なる物と汚れた物とを区別せず、清くない物と清い物との違いを教えず、わが安息日を無視し、こうしてわたしは彼らの間に汚されている。

イザ 60:1～3 （口語訳）

60:1 起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。

60:2 見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。

60:3 もろもろの国は、あなたの光に来、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに来る。

イザ 62:1、2 （口語訳）

62:1 シオンの義が朝日の輝きのようにならわれないで、エルサレムの救が燃えるたいまつになるまで、わたしはシオンのために黙せず、エルサレムのために休まない。

62:2 もろもろの国はあなたの義を見、もろもろの王は皆あなたの栄えを見る。そして、あなたは主の口が定められる新しい名をもってとなえられる。

代下 13:22 （口語訳）

13:22 アビヤのその他の行為すなわちその行動と言葉は、預言者イドの注釈にし

エレ 42:4 (新共同訳)

42:4 預言者エレミヤは答えた。「承知しました。おっしゃるとおり、あなたたちの神である主に祈りましょう。主があなたたちに答えられるなら、そのすべての言葉をお伝えします。」

王下 22:15~17 (新共同訳)

22:15 彼女は答えた。「イスラエルの神、主はこう言われる。『あなたたちをわたしのもとに遣わした者に言いなさい。』

22:16 主はこう言われる。見よ、わたしはユダの王が読んだこの書のすべての言葉のとおり、この所とその住民に災いをくだす。

22:17 彼らがわたしを捨て、他の神々に香をたき、自分たちの手で造ったすべてのものによってわたしを怒らせたために、わたしの怒りはこの所に向かって燃え上がり、消えることはない。

るされている。

エレ 42:4 (口語訳)

42:4 預言者エレミヤは彼らに言った、「よくわかりました。あなたがたの求めにしたがって、あなたがたの神、主に祈りましょう。主があなたがたに答えられることを、何事も隠さないであなたがたに言いましょう」。

王下 22:15~17 (口語訳)

22:15 ホルダは彼らに言った、「イスラエルの神、主はこう仰せられます、『あなたがたをわたしにつかわした人に言いなさい。』」
22:16 主はこう言われます。見よ、わたしはユダの王が読んだあの書物のすべての言葉にしたがって、災をこの所と、ここに住んでいる民に下そうとしている。

22:17 彼らがわたしを捨てて他の神々に香をたき、自分たちの手で作ったものをもつて、わたしを怒らせたからである。それゆえ、わたしはこの所にむかって怒りの火を発する。これは消えることがないであろう』。

水曜日 10月14日 女預言者

問6 出エジプト記 15:20、士師記 4:4、列王記(列王紀)下 22:14、ネヘミヤ記 6:14 を読んでください。これらの聖句は、預言者の役割について、どんなことを教えてくれますか。

聖書には、神が女性を預言者として召されたことを示す十分な証拠があります(ヘブライ語の「ネビアー」[出 15:20]、ギリシア語の「プロフェーティス」[ルカ 2:36]参照)。ミリアムは、ミカ6:4において、民のもとに遣わされた者としてモーセやアロンと共に挙げられており、イスラエルの人々が葦の海(紅海)を渡った際には(出 15:20、21)、勝利の歌を歌った女預言者として紹介されています。しかし、この女預言者も、ほかの男預言者たちと同様、欠点がなかったわけではありません。モーセと彼のクシュ(クシ)人の妻に対する彼女の恥ずべき態度がそれを示しており、その行為のために、彼女は当然の罰を受けました(民 12:1~10 参照)。

イスラエルで士師として仕えたデボラの物語にも(士師 4:1~4)、もう1人の預言者の働きを見ることができます。実際、デボラ(同 4:4)が神から啓示を受けたという明白な証拠があります(同 4:4~9、14~22)。彼女の勝利の歌(同 5:2~31)は、神の介入を認めるものであり、歴史上、当時のイスラエル国家にとって深い神学的意味を持っていました。

問7 列王記(列王紀)下 22:11～14 を読んでください。ヨシヤ王の部下たちは、なぜフルダ(ホルダ)のところへ行ったのですか。このことは、イスラエルにおける彼女の重要な役割について、どんなことを教えてくれますか。

「女預言者」フルダ(ホルダ)は、ヨシヤ王の重臣たちから相談を受けました(王下 22:14、代下 34:22)。それは、彼らが「律法の書」(王下 22:8、申命記と思われる)をヨシヤ王に読み聞かせ、王がそれを聞いて「衣を裂いた」(同 22:11)あとのことでした。これは明らかに重大な事柄であり、王もそのように受け止めました。だからこそ、王の家臣たちはすぐにフルダ(ホルダ)のもとへ向かったのです。彼女は、ユダに迫り来る裁きについて、神からメッセージを受け取っていました。ヨシヤの改革は、フルダ(ホルダ)の預言のメッセージから生じたものであり、その改革によって、神の民に対する裁きは回避されたのです。

【参考】英語テキストにある文

Men prophets and women prophets, though called of God, were also sinners in need of grace. What hope can you take from their stories?

神に召されたとはいえ、男預言者も女預言者も、恵みを必要とする罪人でした。預言者たちの物語から、あなたはどのような希望を見出すことができますか。

22

出 15:20 (新共同訳)

15:20 アロンの姉である女預言者ミリアムが小太鼓の手に取ると、他の女たちも小太鼓の手に持ち、踊りながら彼女の後に続いた。

士師 4:4 (新共同訳)

4:4 ラピドトの妻、女預言者デボラが、士師としてイスラエルを裁くようになったのはそのころである。

王下 22:14 (新共同訳)

22:14 祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シャファン、アサヤは女預言者フルダのもとに行った。彼女はハルハスの孫でテイクワの子である衣装係シャルムの妻で、エルサレムのミシュネ地区に住んでいた。彼らが彼女に話し聞かせると、

ネヘ 6:14 (新共同訳)

6:14 わが神よ、トビヤとサンバラトのこの仕業と、わたしを脅迫した女預言者ノアダや他の預言者たちを覚えていてください。

出 15:20 (口語訳)

15:20 そのとき、アロンの姉、女預言者ミリアムはタンバリンの手に取り、女たちも皆タンバリンを取って、踊りながら、そのあとに従って出てきた。

士師 4:4 (口語訳)

4:4 そのころラピドトの妻、女預言者デボラがイスラエルをさばいていた。

王下 22:14 (口語訳)

22:14 そこで祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シャパンおよびアサヤはシャルムの妻である女預言者ホルダのもとへ行った。シャルムはハルハスの子であるテイクワの子で、衣装べやを守る者であった。その時ホルダはエルサレムの下町に住んでいた。彼らがホルダに告げたので、

ネヘ 6:14 (口語訳)

6:14 わが神よ、トビヤ、サンバラテおよび女預言者ノアダやならびにその他の預言者など、すべてわたしを恐れさせようとする者たちをおぼえて、彼らが行ったこれらのわざに報いてください。

ルカ 2:36 (新共同訳)

2:36 また、アシェル族のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。非常に年をとって、若いとき嫁いでから七年間夫と共に暮らしたが、

ミカ 6:4 (新共同訳)

6:4 わたしはお前をエジプトの国から導き上り/奴隷の家から贖った。また、モーセとアロンとミリアムを/お前の前に遣わした。

出 15:20、21 (新共同訳)

15:20 アロンの姉である女預言者ミリアムが小太鼓を手に取ると、他の女たちも小太鼓を手に持ち、踊りながら彼女の後に続いた。

15:21 ミリアムは彼らの音頭を取って歌った。主に向かって歌え。主は大いなる威光を現し/馬と乗り手を海に投げ込まれた。

民 12:1~10 (新共同訳)

12:1 ミリアムとアロンは、モーセがクシュの女性を妻にしていることで彼を非難し、「モーセはクシュの女を妻にしている」と言った。

12:2 彼らは更に言った。「主はモーセを通してのみ語られるというのか。我々を通して語られるのではないか。」主はこれを聞かれた。

12:3 モーセという人はこの地上のだれにもまさって謙遜であった。

12:4 主は直ちにモーセとアロンとミリアムに言われた。「あなたたちは三人とも、臨在の幕屋の前に出よ。」彼ら三人はそこに出た。

12:5 主は雲の柱のうちにあって降り、幕屋の入り口に立ち、「アロン、ミリアム」と呼ばれた。二人が進み出ると、

12:6 主はこう言われた。「聞け、わたしの言葉を。あなたたちの間に預言者がいれば/主なるわたしは幻によって自らを示し/夢によって彼に語る。

12:7 わたしの僕モーセはそうではない。彼はわたしの家の者すべてに信頼されている。

ルカ 2:36 (口語訳)

2:36 また、アセル族のパヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。彼女は非常に年をとっていた。むすめ時代にとついで、七年間だけ夫と共に住み、

ミカ 6:4 (口語訳)

6:4 わたしはエジプトの国からあなたを導きのぼり、奴隷の家からあなたをあがない出し、モーセ、アロンおよびミリアムをつかわして、あなたに先だたせた。

出 15:20、21 (口語訳)

15:20 そのとき、アロンの姉、女預言者ミリアムはタンバリンを手に取り、女たちも皆タンバリンを取って、踊りながら、そのあとに従って出てきた。

15:21 そこでミリアムは彼らに和して歌った、「主にもかって歌え、彼は輝かしくも勝ちを得られた、彼は馬と乗り手を海に投げ込まれた」。

民 12:1~10 (口語訳)

12:1 モーセはクシュの女をめとっていたが、そのクシュの女をめとったゆえをもって、ミリアムとアロンはモーセを非難した。

12:2 彼らは言った、「主はただモーセによって語られるのか。われわれによっても語られるのではないのか」。主はこれを聞かれた。

12:3 モーセはその人となり柔和なこと、地上のすべての人にまさっていた。

12:4 そこで、主は突然モーセとアロン、およびミリアムにむかって「あなたがた三人、会見の幕屋に出てきなさい」と言われたので、彼ら三人は出てきたが、

12:5 主は雲の柱のうちにあって下り、幕屋の入口に立って、アロンとミリアムを呼ばれた。彼らふたりが進み出ると、

12:6 彼らに言われた、「あなたがたは、いま、わたしの言葉を聞きなさい。あなたがたのうちに、もし、預言者があるならば、主なるわたしは幻をもって、これにわたしを知らせ、また夢をもって、これと語るであろう。

12:7 しかし、わたしのしもべモーセとは、そうではない。彼はわたしの全家に忠信なる者である。

12:8 口から口へ、わたしは彼と語り合う
あらわに、謎によらずに。主の姿を彼は
仰ぎ見る。あなたたちは何故、畏れもせ
ず/わたしの僕モーセを非難するのか。」

12:9 主は、彼らに対して憤り、去って行
かれ、

12:10 雲は幕屋を離れた。そのとき、見
よ、ミリアムは重い皮膚病にかかり、雪
のように白くなっていた。アロンはミリ
アムの方を振り向いた。見よ、彼女は重
い皮膚病にかかっていた。

士師 4:1～9 (新共同訳)

4:1 エフドの死後、イスラエルの人々は
またも主の目に悪とされることを行い、

4:2 主はハツォルで王位についていたカ
ナンの王ヤビンの手に、彼らを売り渡さ
れた。ヤビンの將軍はシセラであって、
ハロシエト・ハゴイムに住んでいた。

4:3 イスラエルの人々は、主に助けを求め
て叫んだ。ヤビンは鉄の戦車九百両を有
し、二十年にわたってイスラエルの人々
を、力づくで押さえつけたからである。

4:4 ラピドトの妻、女預言者デボラが、士
師としてイスラエルを裁くようになった
のはそのころである。

4:5 彼女は、エフライム山地のラマとベテ
ルの間にあるデボラのなつめやしの木の下
に座を定め、イスラエルの人々はその彼女
に裁きを求めて上ることにしていた。

4:6 さて、彼女は人を遣わして、ナフタリ
のケデシからアビノアムの子バラクを
呼び寄せて言った。「イスラエルの神、主
がお命じになったではありませんか。『行
け、ナフタリ人とゼブルン人一万を動員
し、タボル山に集結させよ。』

4:7 わたしはヤビンの將軍シセラとその
戦車、軍勢をお前に対してキシヨン川に
集結させる。わたしは彼をお前の手に渡
す』と。」

4:8 バラクはデボラに言った。「あなたが
共に来てくださるなら、行きます。もし
来てくださらないなら、わたしは行きま
せん。」

4:9 デボラは、「わたしも一緒に行きます。
ただし今回の出陣で、あなたは榮譽を自
分のものとするとはできません。主は

12:8 彼とは、わたしは口ずから語り、明
らかに言って、なぞを使わない。彼はま
た主の形を見るのである。なぜ、あなた
がたはわたしのしもべモーセを恐れず非
難するのか。」

12:9 主は彼らにむかい怒りを発して去ら
れた。

12:10 雲が幕屋の上を離れ去った時、ミ
リアムは、重い皮膚病となり、その身は
雪のように白くなった。アロンがふり返
ってミリアムを見ると、彼女は重い皮膚
病になっていた。

士師 4:1～9 (口語訳)

4:1 エホデが死んだ後、イスラエルの人々
がまた主の前に悪をおこなったので、

4:2 主は、ハツォルで世を治めていたカ
ナンの王ヤビンの手に彼らを売りわたされ
た。ヤビンの軍勢の長はハロセテ・ゴイ
ムに住んでいたシセラであった。

4:3 彼は鉄の戦車九百両をもち、二十年
の間イスラエルの人々を激しくしえたげ
たので、イスラエルの人々は主に向かっ
て呼ばわった。

4:4 そのころラピドテの妻、女預言者デ
ボラがイスラエルをさばいていた。

4:5 彼女はエフライムの山地のラマとベ
テルの間にあるデボラのしゅろの木の下
に座し、イスラエルの人々は彼女のもと
に上ってきて、さばきをうけた。

4:6 デボラは人をつかわして、ナフタリ
のケデシからアビノアムの子バラクを招いて
言った、「イスラエルの神、主はあなたに、
こう命じられるではありませんか、『ナフタ
リの部族とゼブルンの部族から一万人を
率い、行って、タボル山に陣をしけ。』

4:7 わたしはヤビンの軍勢の長シセラと
その戦車と軍隊とをキシヨン川に引き寄
せて、あなたに出あわせ、彼をあなたの
手にわたすであろう』。

4:8 バラクは彼女に言った、「あなたがも
し一緒に行ってくださいれば、わたしは行
きます。しかし、一緒に行ってくださいら
ないならば、行きません」。

4:9 デボラは言った、「必ずあなたと一緒
に行きます。しかしあなたは今行く道で
は譽を得ないでしょう。主はシセラを女

女の手シセラを売り渡されるからです」と答え、直ちにバラクと共にケデシユに向かった。

士師 4:14～22 (新共同訳)

4:14 デボラはバラクに言った。「立ちなさい。主が、シセラをあなたの手にお渡しになる日が来ました。主が、あなたに先立って出て行かれたではありませんか。」バラクは一万の兵を従え、タボル山を下った。

4:15 主は、シセラとそのすべての戦車、すべての軍勢をバラクの前で混乱させられた。シセラは車を降り、走って逃げた。

4:16 バラクは、敵の戦車と軍勢をハロシエト・ハゴイムまで追いつめた。シセラの軍勢はすべて剣に倒れ、一人も残らなかった。

4:17 シセラは、カイン人ヘベルの妻ヤエルの天幕に走って逃げて来た。ハツォルの王ヤビンと、カイン人ヘベル族との間は友好的であったからである。

4:18 ヤエルが出て来てシセラを迎え、「どうぞこちらに。わたしの主君よ、こちらにお入りください。御心配には及びません」と言う、彼は彼女に近づいて天幕に入った。彼女は布で彼を覆った。

4:19 シセラが彼女に、「喉が渇いた。水を少し飲ませてくれ」と言うので、彼女は革袋を開けてミルクを飲ませ、彼を覆った。

4:20 シセラは彼女に、「天幕の入り口に立っているように。人が来て、ここに誰がいるかと尋ねれば、だれもいないと答えてほしい」と言った。

4:21 だが、ヘベルの妻ヤエルは天幕の釘を取り、槌を手にして彼のそばに忍び寄り、こめかみに釘を打ち込んだ。釘は地まで突き刺さった。疲れきって熟睡していた彼は、こうして死んだ。

4:22 そこへバラクがシセラを追ってやって来た。ヤエルは出て来て彼を迎え、「おいでください。捜しておられる人をお目にかけましょう」と言ったので、彼は天幕に入った。そこにはシセラが倒れて死んでおり、そのこめかみには釘が刺さっていた。

の手にわたされるからです」。デボラは立ってバラクと一緒にケデシに行った。

士師 4:14～22 (口語訳)

4:14 デボラはバラクに言った、「さあ、立ちあがりなさい。きょうは主がシセラをあなたの手にお渡しされる日です。主はあなたに先立って出られるではありませんか」。そこでバラクは一万人を従えてタボル山から下った。

4:15 主はつるぎをもってシセラとすべての戦車および軍勢をことごとくバラクの前に撃ち敗られたので、シセラは戦車から飛びおり、徒歩で逃げ去った。

4:16 バラクは戦車と軍勢とを追撃してハロセテ・ゴイムまで行った。シセラの軍勢はことごとくつるぎにたおれて、残ったものはひとりもなかった。

4:17 しかしシセラは徒歩で逃げ去って、ケニびとヘベルの妻ヤエルの天幕に行った。ハゾルの王ヤビンとケニびとヘベルの家とは互にむつまじかったからである。

4:18 ヤエルは出てきてシセラを迎え、彼に言った、「おはいりください。主よ、どうぞうちへおはいりください。恐れるにはおよびません」。シセラが天幕にはいったので、ヤエルは毛布をもって彼をおおった。

4:19 シセラはヤエルに言った、「どうぞ、わたしに水を少し飲ませてください。のどがかわきましたから」。ヤエルは乳の皮袋を開いて彼に飲ませ、また彼をおおった。

4:20 シセラはまたヤエルに言った、「天幕の入口に立っていてください。もし人がきて、あなたに『だれか、ここにおりますか』と問うならば『おりません』と答えてください」。

4:21 しかし彼が疲れて熟睡したとき、ヘベルの妻ヤエルは天幕のくぎを取り、手に槌を携えて彼に忍び寄り、こめかみにくぎを打ち込んで地に刺し通したので、彼は息絶えて死んだ。

4:22 バラクがシセラを追ってきたとき、ヤエルは彼を出迎えて言った、「おいでなさい。あなたが求めている人をお見せしましょう」。彼がヤエルの天幕にはいったら、シセラはこめかみにくぎを打たれて倒れて死んでいた。

士師 5:2～31 (新共同訳)

5:2 イスラエルにおいて民が髪を伸ばし/進んで身をささげるとき/主をほめたたえよ。

5:3 もろもろの王よ、聞け/君主らよ、耳を傾けよ。わたしは主に向かって歌う。イスラエルの神、主に向かって/わたしは賛美の歌をうたう。

5:4 主よ、あなたがセイルを出で立ち/エドムの野から進み行かれるとき/地は震え/天もまた滴らせた。雲が水を滴らせた。

5:5 山々は、シナイにいます神、主の御前に/イスラエルの神、主の御前に溶け去った。

5:6 アナトの子シャムガルの時代/ヤエルの時代に/隊商は絶え/旅する者は脇道を行き

5:7 村々は絶えた。イスラエルにこれらは絶えた。わたしデボラはついに立ち上がった。イスラエルの母なるわたしは/ついに立ち上がった。

5:8 新しい神々を選び取ったので/城門に戦いが迫ったが/イスラエルの四万人の中に/盾も、槍も見えたであろうか。

5:9 わが心はイスラエルの指揮する者らと共に/この民の進んで身をささげる者と共にある。主をほめたたえよ。

5:10 栗毛の雌ろばに乗り/敷物を置いてその背に座り/道を行く者よ、歌え。

5:11 水くみ場で水を分ける者らの声のせて/主の救いを語り告げよ。イスラエルの村々の救いを。そのときこそ、主の民は/城門に向かって下って行く。

5:12 奮い立て、奮い立て、デボラよ/奮い立て、奮い立て、ほめ歌をうたえ。立ち上られ、バラクよ/敵をとりこにせよ、アビノアムの子よ。

5:13 そのとき、残った者は堂々と下って行く/主の民は勇ましくわたしと共に下って行く。

5:14 エフライムからは/アマレクにその根のある者が下り/ベニヤミンは/あなたの同族の者と共にあなたに続き/マキルからは指揮する者らが/ゼブルンからは指図の杖を持って率いる者らが/下って行く。

士師 5:2～31 (口語訳)

5:2 「イスラエルの指導者たちは先に立ち、民は喜び勇んで進み出た。主をさんびせよ。

5:3 もろもろの王よ聞け、もろもろの君よ、耳を傾けよ。わたしは主に向かって歌おう、わたしはイスラエルの神、主をほめたたえよう。

5:4 主よ、あなたがセイルを出、エドムの地から進まれたとき、地は震い、天はしたたり、雲は水をしたたらせた。

5:5 もろもろの山は主の前に揺り動き、シナイの主、すなわちイスラエルの神、主の前に揺り動いた。

5:6 アナテの子シャムガルのとき、ヤエルの時には隊商は絶え、旅人はわき道をとった。

5:7 イスラエルには農民が絶え、かれらは絶え果てたが、デボラよ、ついにあなたは立ちあがり、立ってイスラエルの母となった。

5:8 人々が新しい神々を選んだとき、戦いは門に及んだ。イスラエルの四万人のうちに、盾あるいは槍の見られたことがあったか。

5:9 わたしの心は民のうちの喜び勇んで進み出したイスラエルのつかさたちと共にある。主をさんびせよ。

5:10 茶色のろばに乗るもの、毛氈の上にすわるもの、および道を歩むものよ、共に歌え。

5:11 楽人の調べは水くむ所に聞える。かれらはそこで主の救を唱え、イスラエルの農民の救を唱えている。その時、主の民は門に下って行った。

5:12 起きよ、起きよ、デボラ。起きよ、起きよ、歌をうたえ。立てよ、バラク、とりこを捕えよ、アビノアムの子よ。

5:13 その時、残った者は尊い者のように下って行き、主の民は勇士のように下って行った。

5:14 彼らはエフライムから出て谷に進み、兄弟ベニヤミンはあなたの民のうちにある。マキルからはつかさたちが下って行き、ゼブルンからは指揮を執るものが下って行った。

5:15 イサカルの將軍らは、デボラと共にいた。イサカルはバラクと同様/その歩兵らと共に平野に送られた。ルベンの諸支族には/大いに心に期するものがあつた。
5:16 なぜ、あなたは二つの鞍袋の間に座して/羊の群れに吹く笛を聞くのか。ルベンの諸支族には/大いに心に究めるものがあつた。

5:17 ギレアドはヨルダンの向こうにとどまつた。ダンは、なぜ舟に宿るのか。アシェルは海辺に座し/舟着き場にとどまつた。
5:18 ゼブルンは死ぬことをいとわぬ民/ナフタリも野の高い所に陣取つた。

5:19 王たちはやって来て、戦つた。カナンの王たちは戦つた/メギドの流れのほとり、タナクで。だが、銀を奪い取ることはできなかった。

5:20 もろもろの星は天から戦いに加わりその軌道から、シセラと戦つた。

5:21 キシヨン川は彼らを押し流した/太古の川、キシヨン川が。わが魂よ、力強く進め。

5:22 そのとき、馬のひづめは地を踏み鳴らす。駿馬の一隊が突き進む。

5:23 主の御使いは言つた。「メロズを呪え、その住民を激しく呪え。彼らは主を助けに来なかつた。勇士と共に主を助けに来なかつた。」

5:24 女たちの中で最も祝福されるのは/カイン人ヘベルの妻ヤエル。天幕にいる女たちの中で/最も祝福されるのは彼女。

5:25 水を求められて/ヤエルはミルクを与えた。貴人にふさわしい器で凝乳を差し出した。

5:26 彼女は手を伸ばして釘を取り/職人の槌を右手に握り/シセラの頭に打ち込んで碎いた。こめかみを打ち、刺し貫いた。

5:27 彼女の足もとに、シセラは/かがみこみ、倒れ、伏した。彼女の足もとに、彼は/かがみこみ、倒れた。かがみこみ、そこに倒れて息絶えた。

5:28 シセラの母は窓から外を見て/格子を通して嘆いた。「どうして彼の車は遅れているのか。どうして馬のひづめの音は

5:15 イッサカルの君たちはデボラと共におり、イッサカルはバラクと同じく、直ちにそのあとについて谷に突進した。しかしルベンの氏族は大いに思案した。

5:16 なぜ、あなたは、おりの間にとどまって、羊の群れに笛吹くのを聞いているのか。ルベンの氏族は大いに思案した。

5:17 ギレ阿德はヨルダンの向こうにとどまっていた。なぜ、ダンは舟のかたわらにとどまつたか。アセルは浜べに座し、その波止場のかたわらにとどまっていた。

5:18 ゼブルンは命をすてて、死を恐れぬ民である。野の高い所におけるナフタリもまたそうであった。

5:19 もろもろの王たちはきて戦つた。その時カナンの王たちは、メギドの水のほとりのタアナクで戦つた。彼らは一片の銀をも獲なかつた。

5:20 もろもろの星は天より戦い、その軌道をはなれてシセラと戦つた。

5:21 キシヨンの川は彼らを押し流した、激しく流れる川、キシヨンの川。わが魂よ、勇ましく進め。

5:22 その時、軍馬ははせ駆けり、馬のひづめは地を踏みならした。

5:23 主の使は言つた、『メロズをのろえ、激しくその民をのろえ、彼らはきて主を助けず、主を助けて勇士を攻めなかつたからである』。

5:24 ケニびとヘベルの妻ヤエルは、女のうちの最も恵まれた者、天幕に住む女のうち最も恵まれた者である。

5:25 シセラが水を求めると、ヤエルは乳を与えた。すなわち貴重な鉢に凝乳を盛ってささげた。

5:26 ヤエルはくぎに手をかけ、右手に重い槌をとって、シセラを打ち、その頭を砕き、粉々にして、そのこめかみを打ち貫いた。

5:27 シセラはヤエルの足もとにかがんで倒れ伏し、その足もとにかがんで倒れ、そのかがんだ所に倒れて死んだ。

5:28 シセラの母は窓からながめ、格子窓から叫んで言つた、『どうして彼の車の来るのがおそいのか、どうして彼の車の歩

遅いのか。』

5:29 賢い女官たちは答えた。母も同じ言葉
を自分に何度も言い聞かせた。

5:30 「戦利品を得て、分けているのでし
ょう/兵士それぞれに一人か二人の女を。
セセラには/染めた布が戦利品、染めた布
が戦利品/刺しゅうした布、染めた布/そ
の首には刺しゅうした布二枚/これが戦
利品。」

5:31 このように、主よ、あなたの敵がこ
とごとく滅び、主を愛する者が日の出の
勢いを得ますように。国は四十年にわた
って平穏であった。

王下 22:8~14 (新共同訳)

22:8 そのとき大祭司ヒルキヤは書記官シ
ャファンに、「わたしは主の神殿で律法の
書を見つけました」と言った。ヒルキヤ
がその書をシャファンに渡したので、彼
はそれを読んだ。

22:9 書記官シャファンは王のもとに来て、
王に報告した。「僕どもは神殿にあった献
金を取り出して、主の神殿の責任を負っ
ている工事担当者の手へ渡しました。」

22:10 更に書記官シャファンは王に、「祭司
ヒルキヤがわたしに一つの書を渡しまし
た」と告げ、王の前でその書を読み上げ
た。

22:11 王はその律法の書の言葉を聞くと、
衣を裂いた。

22:12 王は祭司ヒルキヤ、シャファンの
子アヒカム、ミカヤの子アクボル、書記
官シャファン、王の家臣アサヤにこう命
じた。

22:13 「この見つかった書の言葉につい
て、わたしのため、民のため、ユダ全体
のために、主の御旨を尋ねに行け。我々
の先祖がこの書の言葉に耳を傾けず、
我々についてそこに記されたとおりにす
べての事を行わなかったために、我々に
向かって燃え上がった主の怒りは激しい
からだ。」

22:14 祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボ
ル、シャファン、アサヤは女預言者フル
ダのもとに行った。彼女はハルハスの孫
でティクワの子である衣装係シャルムの
妻で、エルサレムのミシュネ地区に住ん

みがはかどらないのか。』

5:29 その侍女たちの賢い者は答え、母ま
たみずからおのれに答えて言った、

5:30 『彼らは獲物を得て、それを分けて
いるのではないか、人ごとにひとり、ふ
たりのおなごを取り、セセラの獲物は色
染めの衣、縫い取りした色染めの衣の獲
物であろう。すなわち縫い取りした色染
めの衣二つを、獲物としてそのくびにま
とうであろう。』

5:31 主よ、あなたの敵はみなこのように
滅び、あなたを愛する者を太陽の勢いよ
く上るようにしてください。こうして
後、国は四十年のあいだ太平であった。

王下 22:8~14 (口語訳)

22:8 その時大祭司ヒルキヤは書記官シ
ャパンに言った、「わたしは主の宮で律法の
書を見つけました」。そしてヒルキヤがそ
の書物をシャパンに渡したので、彼はそ
れを読んだ。

22:9 書記官シャパンは王のもとへ行き、
王に報告して言った、「しもべどもは宮に
あった銀を皆出して、それを工事をつかさ
どる主の宮の監督者の手に渡しました。」

22:10 書記官シャパンはまた王に告げて
「祭司ヒルキヤはわたしに一つの書物を
渡しました」と言い、それを王の前で読
んだ。

22:11 王はその律法の書の言葉を聞くと、
その衣を裂いた。

22:12 そして王は祭司ヒルキヤと、シ
ャパンの子アヒカムと、ミカヤの子アクボ
ルと、書記官シャパンと、王の大臣アサ
ヤとに命じて言った、

22:13 「あなたがたは行って、この見つ
かった書物の言葉について、わたしのため、
民のため、またユダ全国のために主に尋
ねなさい。われわれの先祖たちがこの書
物の言葉に聞き従わず、すべてわれわれ
について行われている事を行わなかつ
たために、主はわれわれにむかって、大
いなる怒りを発しておられるからです」。

22:14 そこで祭司ヒルキヤ、アヒカム、ア
クボル、シャパンおよびアサヤはシャル
ムの妻である女預言者ホルダのもとへ行
った。シャルムはハルハスの子であるテ
クワの子で、衣装ベヤを守る者であった。

でいた。彼らが彼女に話し聞かせると、

代下 34:22 (新共同訳)

34:22 ヒルキヤと王が指名した者たちは、女預言者フルダのもとに行った。彼女はハスラの孫でトクハトの子である衣装係シャルムの妻で、エルサレムのミシュネ地区に住んでいた。彼らがその話を彼女に聞かせると、

その時ホルダはエルサレムの下町に住んでいた。彼らがホルダに告げたので、

代下 34:22 (口語訳)

34:22 そこでヒルキヤおよび王のつかわした人々は、シャルムの妻である女預言者ホルダのもとへ行った。シャルムはハスラの子であるトクハトの子で、衣装を守る者である。時にホルダは、エルサレムの第二区に住んでいた。彼らはホルダにその趣意を語ったので、

木曜日 10月15日 偽預言者

神が何をなさるにしても、サタンは偽物を用意します。預言者についても同様です。イスラエルは、真の預言者と偽りの預言者の双方に遭遇しました。重要なのは、その違いを見分けることでした。

問8 エレミヤ 14:1～15 を読んでください。ここではどんなことが起きていますか。また主は、「預言者」として御名において偽りを語る者たちを、どのように見なしておられますか。

エレミヤ14章で神は、[南王国]ユダに対する裁きのメッセージをエレミヤに託されました。それは、剣(戦争)、飢饉、疫病という形でもたらされる裁きでした。当時の偽預言者たちは、エレミヤのメッセージに反論しました。エレミヤは彼らを非常に明確な言葉で描写しています。「主はわたしに言われた。『預言者たちは、わたしの名において偽りの預言をしている。わたしは彼らを遣わしてはいない。彼らを任命したことも、彼らに言葉を託したこともない。彼らは偽りの幻、むなしい呪術、欺く心によってお前たちに預言しているのだ。』」[口語訳「主はわたしに言われた、『預言者らはわたしの名によって偽りの預言をしている。わたしは彼らをつかわさなかった。また彼らに命じたこともなく、話したこともない。彼らは偽りの黙示と、役に立たない占い、および自分の心でつくりあげた欺きをあなたがたに預言しているのだ。』」(エレ 14:14)。

偽預言者は墮落しています。なぜなら、彼らの預言の主張の源が、しばしば彼らが拝んでいる偽りの「神々」だからです(エレ 23:13, 14)。神はこう警告しておられます。「わたしは彼らを遣わしてはいない。彼らを任命したことも、彼らに言葉を託したこともない」[口語訳「わたしは彼らをつかわさなかった。また彼らに命じたこともなく、話したこともない」](同 14:14)。彼らは、「自分の心が欺くまに預言する預言者たち」[口語訳「その心の欺きを預言する(預言者たち)」](同 23:26)なのです。エゼキエルは、「自分の心のままに預言する者たちに向かって預言し……なさい」[口語訳「自分の心のままに預言する人々に向かって、預言して言え」](エゼ 13:2)と命じられました。

偽預言者はしばしば世論に迎合します。列王記(列王紀)上22章で、アハブ王の命令によって400人の「預言者」が招集されたときもそうでした(王上 22:6)。彼らは声を揃えて、ラモト・ギレアデ(ラモテ・ギレアデ)と戦うよう、王に進言しました。アハブはアシエラ(アシラ)の預言者たちから預言的な助言を聞いたあと、ユダの王ヨシャファト(ヨシャパテ)と協議し、ヨシャファト(ヨシャパテ)はアハブに、戦いに行くべきかどうか預言者ミカヤにも相談するよう促しました。「ミカヤを呼びに行った使いの者は、ミカヤにこう言い含めた。『いいですか。預言者たちは口をそろえて、王に幸運を告げています。どうかあなたも、彼らと同じように語り、幸運を教えてください』」[口語訳「さてミカヤを呼びにいった使者は彼に言った、『預言者たちは一致して王に良い事を言いました。どうぞ、あなたも、彼らのひとりの言葉のようにして、良い事を言ってください』」](王上 22:13)。

ミカヤにもまた、偽預言者たちと同じように迎合するよう圧力がかけられましたが、ミカヤはそんな世論に従いませんでした。彼は、言うべきことを神が告げられるのを待ったのです(王上 22:14)。

【参考】英語テキストにある文

Whether or not you are a prophet, it's always easy to follow the popular thing. Considering how corrupt culture can be, why is this never a good idea?

預言者であろうとなかろうと、世論に迎合するのはいつだって簡単なことです。文化がいかに腐敗する可能性があるかを考えると、そうすることが決して良い考えとは言えないのはなぜでしょうか。

23

エレ 14:1～15 (新共同訳)

14:1 干ばつに見舞われたとき、主の言葉がエレミヤに臨んだ。

14:2 ユダは渴き、町々の城門は衰える。人々は地に伏して嘆き/エルサレムは叫びをあげる。

14:3 貴族は水を求めて、召し使いを送る。彼らが貯水池に来て、水がないので/空の水がめを持ち/うろたえ、失望し、頭を覆って帰る。

14:4 地には雨が降らず/大地はひび割れる。農夫はうろたえ、頭を覆う。

14:5 青草がないので/野の雌鹿は子を産んでも捨てる。

14:6 草が生えないので/野ろばは裸の山の上に立ち/山犬のようにあえぎ、目はかすむ。

14:7 我々の罪が我々自身を告発してい

エレ 14:1～15 (口語訳)

14:1 ひでりの事についてエレミヤに臨んだ主の言葉。

14:2 「ユダは悲しみ、その町々の門は傾き、民は地に座して嘆き、エルサレムの叫びはあがる。

14:3 その君たちは、しもべをつかわして水をくませる。彼らが井戸の所にきて、水は見つからず、むなしい器をもって帰り、恥じ、かつ当惑して、その頭をおおう。

14:4 地に雨が降らず、土が、かわいて割れたため、農夫は恥じて、その頭をおおう。

14:5 野にいる雌じかでさえも子を産んで、これを捨てる。草がないからである。

14:6 野ろばは、はげ山の上に立って、山犬のようにあえぎ、草のないために、その目はくらむ。

14:7 主よ、われわれの罪がわれわれを訴

ます。主よ、御名にふさわしく行ってください。我々の背信は大きく/あなたに対して罪を犯しました。

14:8 イスラエルの希望、苦難のときの救い主よ。なぜあなたは、この地に身を寄せている人/宿を求める旅人のようになっておられるのか。

14:9 なぜあなたは、とまどい/人を救いえない勇士のようになっておられるのか。主よ、あなたは我々の中におられます。我々は御名によって呼ばれています。我々を見捨てないでください。

14:10 主はこの民についてこう言われる。「彼らはさまようことを好み、足を慎もうとしない。」主は彼らを喜ばれず、今や、その罪に御心を留め、咎を罰せられる。

14:11 主はわたしに言われた。「この民のために祈り、幸いを求めてはならない。

14:12 彼らが断食しても、わたしは彼らの叫びを聞かない。彼らが焼き尽くす献げ物や穀物の献げ物をささげても、わたしは喜ばない。わたしは剣と、飢饉と、疫病によって、彼らを滅ぼし尽くす。」

14:13 わたしは言った。「わが主なる神よ、預言者たちは彼らに向かって言っています。『お前たちは剣を見ることはなく、飢饉がお前たちに臨むこともない。わたしは確かな平和を、このところでお前たちに与える』と。」

14:14 主はわたしに言われた。「預言者たちは、わたしの名において偽りの預言をしている。わたしは彼らを遣わしてはいない。彼らを任命したことも、彼らに言葉を託したこともない。彼らは偽りの幻、むなしい呪術、欺く心によってお前たちに預言しているのだ。」

14:15 それゆえ、主は預言者についてこう言われる。「彼らはわたしの名によって預言しているが、わたしは彼らを遣わしてはいない。彼らは剣も飢饉もこの国に臨むことはないと言っているが、これらの預言者自身が剣と飢饉によって滅びる。

えて不利な証言をしても、あなたの名のために、事をなしてください。われわれの背信の数は多く、あなたに向かって罪を犯しました。

14:8 イスラエルの望みなる主よ、悩みの時の救主よ、なぜ、あなたはこの地に住む異邦の人のようにし、また一夜の宿りのために立ち寄る旅びとのようになさねばならないのですか。

14:9 なぜ、あなたは、うろたえている人のようにし、また人を救いえない勇士のようになさねばならないのですか。主よ、あなたはわれわれのうちにいらせられます。われわれは、み名によって呼ばれている者です。われわれを見捨てないでください。」

14:10 この民について主はこう言われる、「彼らはこのように好んで、さまよい、その足をとどめることをしなかったので、主は彼らを喜ばず、いまそのとがを覚え、その罪を罰するのだ」。

14:11 主はわたしに言われた、「この民のために恵みを祈ってはならない。

14:12 彼らが断食しても、わたしは彼らの呼ぶのを聞かない。燔祭と素祭をささげても、わたしはそれを受けない。かえって、つるぎと、ききん、および疫病をもって、彼らを滅ぼしてしまう」。

14:13 わたしは言った、「ああ、主なる神よ、預言者たちはこの民に向かい、『あなたがたは、つるぎを見ることはない。ききんもこない。わたしはこの所に確かな平安をあなたがたに与える』と言っています」。

14:14 主はわたしに言われた、「預言者らはわたしの名によって偽りの預言をしている。わたしは彼らをつかわさなかった。また彼らに命じたこともなく、話したこともない。彼らは偽りの黙示と、役に立たない占い、および自分の心でつくりあげた欺きをあなたがたに預言しているのだ。

14:15 それゆえ、わたしがつかわさないのに、わたしの名によって預言して、『つるぎとききんは、この地にこない』と言っているあの預言者について、主はこう仰せられる、この預言者らは、つるぎとききんに滅ぼされる。

エレ 23:13、14 (新共同訳)

23:13 わたしは、サマリアの預言者たちに/あるまじき行いを見た。彼らはバアルによって預言し/わが民イスラエルを迷わせた。

23:14 わたしは、エルサレムの預言者たちの間に/おぞましいことを見た。姦淫を行い、偽りに歩むことである。彼らは悪を行う者の手を強め/だれひとり悪から離れられない。彼らは皆、わたしにとってソドムのように/彼らと共にいる者はゴモラのようなのだ。

エレ 23:26 (新共同訳)

23:26 いつまで、彼らはこんなのか。偽りを預言し、自分の心が欺くまに預言する預言者たちは、

エゼ 13:2 (新共同訳)

13:2「人の子よ、イスラエルの預言者たちに向かって、預言しなさい。自分の心のままに預言する者たちに向かって預言し、言いなさい。主の言葉を聞け。

王上 22:5～15 (新共同訳)

22:5 しかし同時にヨシャファトはイスラエルの王に、「まず主の言葉を求めてください」と言った。

22:6 イスラエルの王は、約四百人の預言者を召集し、「わたしはラモト・ギレアドに行って戦いを挑むべきか、それとも控えるべきか」と問うた。彼らは、「攻め上ってください。主は、王の手にこれをお渡しになります」と答えた。

22:7 しかし、ヨシャファトが、「ここには、このほかに我々が尋ねることのできる主の預言者はいないのですか」と問うと、

22:8 イスラエルの王はヨシャファトに答えた。「もう一人、主の御旨を尋ねることのできる者がいます。しかし、彼はわたしに幸運を預言することがなく、災いばかり預言するので、わたしは彼を憎んでいます。イムラの子ミカヤという者です。」ヨシャファトは、「王よ、そのように言うてはなりません」といさめた。

22:9 そこでイスラエルの王は一人の宦官を呼び、「イムラの子ミカヤを急いで連れて来るように」と言った。

22:10 イスラエルの王はユダの王ヨシャファトと共に、サマリアの城門の入り口

エレ 23:13、14 (口語訳)

23:13 わたしはサマリアの預言者のうちに不快な事のあるのを見た。彼らはバアルによって預言し、わが民イスラエルを惑わした。

23:14 しかしエルサレムの預言者のうちには、恐ろしい事のあるのを見た。彼らは姦淫を行い、偽りに歩み、悪人の手を強くし、人をその悪から離れさせない。彼らはみなわたしにはソドムのものであり、その民はゴモラのものである」。

エレ 23:26 (口語訳)

23:26 偽りを預言する預言者たちの心に、いつまで偽りがあるのであるか。彼らはその心の欺きを預言する。

エゼ 13:2 (口語訳)

13:2「人の子よ、イスラエルの預言者たちに向かって預言せよ。すなわち自分の心のままに預言する人々に向かって、預言して言え、『あなたがたは主の言葉を聞け』。

王上 22:5～15 (口語訳)

22:5 ヨシャパテはまたイスラエルの王に言った、「まず、主の言葉を伺いなさい」。

22:6 そこでイスラエルの王は預言者四百人ばかりを集めて、彼らに言った、「わたしはラモテ・ギレアデに戦いに行くべきでしょうか、あるいは控えるべきでしょうか」。彼らは言った、「上っていきなさい。主はそれを王の手にわたされるでしょう」。

22:7 ヨシャパテは言った、「ここには、われわれの間うべき主の預言者がほかにいませんか」。

22:8 イスラエルの王はヨシャパテに言った、「われわれが主に問うことのできる人が、まだひとりいます。イムラの子ミカヤです。彼はわたしについて良い事を預言せず、ただ悪い事だけを預言するので、わたしは彼を憎んでいます」。ヨシャパテは言った、「王よ、そう言わないでください」。

22:9 そこでイスラエルの王は役人を呼んで、「急いでイムラの子ミカヤを連れてきなさい」と言った。

22:10 さてイスラエルの王およびユダの王ヨシャパテは王の服を着て、サマリア

にある麦打ち場で、それぞれ正装して王座に着いていた。預言者たちは皆、その前に出て預言していた。

22:11 ケナアナの子ツィドキヤが数本の鉄の角を作って、「主はこう言われる。これをもってアラムを突き、殲滅せよ」と言う。

22:12 他の預言者たちも皆同様に預言して、「ラモト・ギレアドに攻め上って勝利を得てください。主は敵を王の手にお渡しになります」と言った。

22:13 ミカヤを呼びに行った使いの者は、ミカヤにこう言い含めた。「いいですか。預言者たちは口をそろえて、王に幸運を告げています。どうかあなたも、彼らと同じように語り、幸運を告げてください。」

22:14 ミカヤは、「主は生きておられる。主がわたしに言われる事をわたしは告げる」と言って、

22:15 王のもとに來た。王が、「ミカヤよ、我々はラモト・ギレアドに行き戦いを挑むべきか、それとも控えるべきか、どちらだ」と問うと、彼は、「攻め上って勝利を得てください。主は敵を王の手にお渡しになります」と答えた。

の門の入口の広場に、おのおのその王座にすわり、預言者たちは皆その前で預言していた。

22:11 ケナアナの子ゼデキヤは鉄の角を造って言った、「主はこう仰せられます、『あなたはこれらの角をもってスリヤびとを突いて彼らを滅ぼしなさい』」。

22:12 預言者たちは皆そのように預言して言った、「ラモテ・ギレアドに上って行って勝利を得なさい。主はそれを王の手にお渡しされるでしょう」。

22:13 さてミカヤを呼びにいった使者は彼に言った、「預言者たちは一致して王に良い事を言いました。どうぞ、あなたも、彼らのひとりの言葉のようにして、良い事を言ってください」。

22:14 ミカヤは言った、「主は生きておられます。主がわたしに言われる事を申しましょ」。

22:15 彼が王の所へ行くと、王は彼に言った、「ミカヤよ、われわれはラモテ・ギレアドに戦いに行くべきでしょうか、あるいは控えるべきでしょうか」。彼は王に言った、「上って行って勝利を得なさい。主はそれを王の手にお渡しされるでしょう」。

金曜日	10月16日	完璧ではないが、自ら進んで
-----	--------	---------------

これまで見てきたように、旧約聖書の預言者の生涯は、神の使者となることが決して楽ではなかったことを明らかにしています。エレン・ホワイトも、聖書の預言者たちと同じ不安を経験しました。先週の金曜日に学んだように、彼女は神の召しを受けたとき、若くて内気で、健康状態がよくなかったのです。二度目の幻によって召しが確認されたものの、エレン・ハーモン[ホワイト]は依然として神の召しを恐れており、こう記しています。

「それから約1週間後、主は私に別の幻を与え、私が経験しなければならない試練を示された。それは、主が私に啓示されたことをほかの人々に伝えるに行かなければならないということ、そして私が激しい反対に遭い、霊の苦しみを受けるであろうということだった。……この幻は私を非常に苦しめた。私の健康状態は極めて悪く、私は17歳にすぎなかったのだ。……この重荷がほかの誰かに負わされるよう、私は熱心に祈った。しかし、私が得た唯一の光は、『わたしがあなたに啓示したことをほかの人々に知らせなさい』というものだった。私は世に出て行くことを受け入れられなかった。生来、自信もほとんどなかったのだ。……私は墓の中に入り

たいとさえ感じた。背負わなければならない責任に比べれば、死んだほうがましだと思ったのである」(『霊的な賜物』第2巻 35、36 ページ、英文)。

【参考】—— Ellen G. White, *Spiritual Gifts*, vol. 2, p. 35, 36.

“About one week after this the Lord gave me another view, and showed me the trials I must pass through; that I must go and relate to others what he had revealed to me; that I should meet with great opposition, and suffer anguish of spirit. . . . This vision troubled me exceedingly. My health was very poor, and I was only seventeen years old. . . . I earnestly prayed that the burden might be laid on some other one. But all the light I could get was, ‘Make known to others what I have revealed to you.’ I was unreconciled to go out into the world. I had naturally but little confidence. . . . I looked with desire into the grave. Death appeared to me preferable to the responsibilities I should have to bear.”

エレン・ハーモンが、召しを受け入れるくらいなら、むしろ死にたいと思ったことに気づかれたでしょうか。多くの祈りと仲間の信徒の励ましのもと、彼女は召しを受け入れ、残りの人生を「主の命令」(“His bidding”)(『霊的な賜物』第2巻 38 ページ、英文)に従うことにささげました。

彼女は、のちのセブンスデー・アドベンチスト教会にとって、さらにはその教会を代表する、最も影響力のある声となりました。とはいえ、エレン・ハーモンも人間であり、個人的な欠点や肉体的な試練、家庭の問題、人間関係の葛藤を抱えていました。しかし、彼女の人間性の中に、私たちは大きな教訓を見いだします——神は、自ら進んでご自分に仕える不完全な人を選ばれるのです。

聖霊の導きのもと、預言者としてのエレン・ホワイトの働きは、信徒を励まし、彼らを聖書の真理に結びつけました。1860年までに、彼女は創立間もないセブンスデー・アドベンチストという教派の発展と、三天使のメッセージを世界に宣べ伝えるという使命において、主導的な役割を果たしました。神はこれらの信徒を導き、1863年にセブンスデー・アドベンチスト教会を組織されます。その後、数十年にわたり、エレン・ホワイトの預言者としての声は、世界的な医療制度や教育制度の確立に影響を与えました。しかし、彼女の働きにおける最も重要な貢献は、総計約10万ページに及ぶ著作物です。エレン・ホワイトの靈感に満ちた著作物は、今日も世界中で語り続けています。